

日田市埋蔵文化財調査報告書第45集

大肥祝原遺跡 大肥上村遺跡

2003年

日田市教育委員会

大肥祝原遺跡
大肥上村遺跡

日田市埋蔵文化財調査報告書第45集

2003年

日田市教育委員会

巻頭写真図版



遺跡周辺空中写真（南から）

序 文

大肥祝原遺跡・大肥上村遺跡は日田市の西側、大肥川沿いに開けた谷の南部に位置します。この谷一帯は近年、大規模な農業基盤整備事業が行われ、それに伴った発掘調査も数多く行われています。その結果、縄文時代から近世にいたる遺跡が発見され、特に弥生時代に福岡をはじめとする北部九州の文化が日田盆地へ伝播する際の重要な拠点になっていたことが明らかになってきました。

本書で報告いたします大肥祝原遺跡・大肥上村遺跡は平成11年度に発掘調査が行われ、縄文時代や弥生時代の遺構が数多く見つかりました。こうした発掘調査の成果をまとめた本書が、今後、文化財の保護や地域の歴史、学術研究等に、ご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査中多大なるご指導を賜りました甲元真之先生、下村智先生をはじめ、ご支援を賜りました大分県文化課の職員の方々、さらには作業員の皆様方に対して、心から厚くお礼申し上げます。

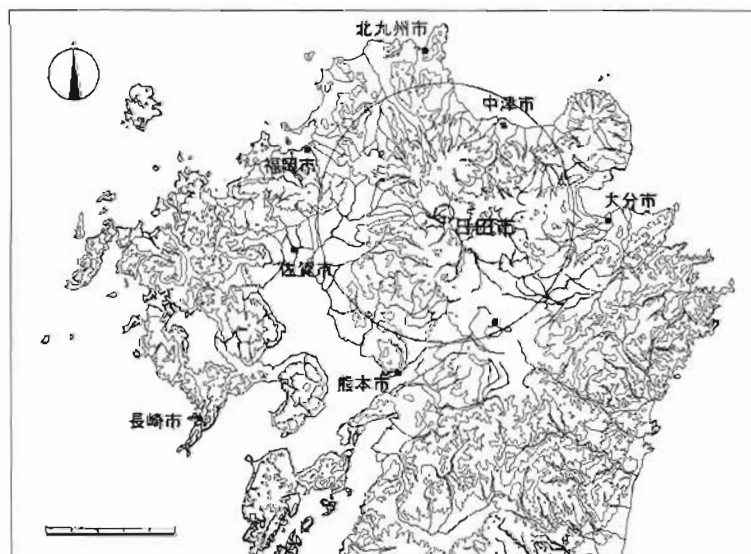
平成15年7月

日田市教育委員会

教育長 後 藤 元 晴

例 言

1. 本書は日田市教育委員会が平成11年度に実施した大肥祝原遺跡A～C区、大肥上村遺跡の発掘調査報告書である。
2. 大明地区一帯は古代の条里跡として周知されてきたため、これまで遺跡名を大肥条里祝原地区、大肥条里上村地区として、これまで報告を行ってきたが、調査の結果、条里跡は確認できなかったことから遺跡名称として不適切なため、本書より大肥祝原遺跡、大肥上村遺跡と改める。
3. 調査は、当委員会が大明地区 県営担い手育成基盤整備事業工事に伴い、大分県日田地方振興局の委託業務として、日田市が受託し、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。
4. 調査にあたっては大分県日田地方振興局耕地課、日田市経済部農政課、大明地区ほ場整備組合 組合長 森山有男氏の協力を得た。
5. 調査現場での実測、写真撮影は土屋・行時・吉田・若杉・森山・五十川・藤江が行った。
6. 本書に掲載した遺物実測は若杉が行い、遺構・遺物の製図は財津香奈子氏（有限会社 雅企画）が行った。
7. 空中写真は有限会社 スカイサーベイに委託し、その成果品を使用した。
8. 遺物の写真撮影は長谷川正美氏（有限会社 雅企画）撮影による。
9. 図面中の方位角は真北である。
10. 写真図版に付した数字番号は、実測図番号に対応する。
11. 出土遺物および図面、写真類は、日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
12. 本書の執筆・編集は若杉が行った。



日田市の位置図

本文目次

I 調査に至る経過と組織	1
(1) 調査の経緯	1
(2) 調査の経過と調査組織	1
II 遺跡の立地と環境	5
III 調査の内容	6
(1) 調査の概要	6
(2) A区の遺構と遺物	6
(3) B区の遺構と遺物	11
(4) C区の遺構と遺物	21
(5) 大肥上村遺跡の遺構と遺物	22
IV まとめ	24

挿入写真目次

写真 1 調査風景

写真図版目次

巻頭写真図版	遺跡周辺空中写真（南から）
写真図版 1	上 大肥祝原遺跡A区空中写真（真上から） 下 大肥祝原遺跡B区空中写真（真上から）
写真図版 2	上 A区1号竪穴遺構完掘状況（南西から） 中 A区2号竪穴遺構完掘状況（南西から） 下 A区1号土坑完掘状況（西から）
写真図版 3	上 A区2号土坑完掘状況（東から） 中 A区3号土坑完掘状況（南東から） 下 A区4号土坑完掘状況（南東から）
写真図版 4	上 A区5号土坑完掘状況（北東から） 中 A区6号土坑完掘状況（西から） 下 B区1号竪穴遺構遺物出土状況（東から）
写真図版 5	上 B区1号竪穴遺構完掘状況（南から） 中 B区1号土坑完掘状況（西から） 下 B区2号土坑完掘状況（南から）
写真図版 6	上 B区3号土坑完掘状況（南から） 中 B区4号土坑完掘状況（西から） 下 B区5号土坑完掘状況（西から）
写真図版 7	上 B区6号土坑焼土検出状況（南西から） 中 B区6号土坑完掘状況（真上から） 下 B区7号土坑焼土検出状況（南から）
写真図版 8	上 B区7号土坑完掘状況（真上から） 中 B区8号土坑完掘状況（東から） 下 B区9号土坑完掘状況（北東から）
写真図版 9	上 B区10号土坑遺物出土状況（西から） 中 B区10号土坑完掘状況（西から） 下 B区11号土坑完掘状況（南から）
写真図版10	上 B区12号土坑完掘状況（南から） 中 C区1号土坑完掘状況（南から） 下 大肥上村遺跡全景（南から）
写真図版11	上 大肥上村遺跡1号甕棺墓検出状況（南から） 中 大肥上村遺跡1号土坑完掘状況（南から） 下 大肥上村遺跡3号土坑完掘状況（南から）
写真図版12	出土遺物 1
写真図版13	出土遺物 2

I はじめに

(1) 調査に至る経過

大明地区担い手育成事業は、同地区の水田 26ha を対象に基盤整備を行うとともに、共同営農や農産物加工所の建設なども含めたモデル営農団地を創設することを目的として平成9年度から事業が開始された。これらの事業地域は周知の埋蔵文化財包蔵地である大肥条里遺跡に該当することから、次年度の工区における試掘調査を実施してきた。初年度は中村工区を対象として試掘調査を行った結果、弥生時代から近世に至る遺構・遺物が確認され、平成10年度に発掘調査が行われた。祝原工区については、茶屋ノ瀬・上村工区とともに平成11年1月13日～28日の間に試掘調査を行った。その結果、縄文時代、弥生時代、中世、近世の遺構・遺物が確認された。この結果をもとに大分県日田地方振興局耕地課と遺跡の取り扱いについて協議を行い、切り土部分ならびに水路部分について、3カ所をA～C区として調査対象とすることとなった。その後、日田市と大分県日田地方振興局との間で委託契約を締結し、平成11年5月15日に調査を開始し、同年8月9日に調査を終了した。

また、調査中、祝原地区（大肥祝原遺跡）、上村地区（大肥上村遺跡）の立会調査を行った結果、両地区とも遺構の存在が確認された。この結果について協議を行った結果、両地区とも盛土での対応は不可能であったことから調査対象とすることになった。祝原地区の調査地点についてはA区とB区の間位置しており、調査順に区名を付してD区とし、上村地区についてはそのまま大肥条里上村地区とした。D区について平成11年9月14日より平成12年1月17日まで行い、縄文時代後～晩期の遺物が大量に出上した。上村地区（大肥上村遺跡）は同年9月28日より10月29日まで調査を行った。

なお、整理作業については平成11年8月2日より平成14年3月27日まで行った。

また、今回は、大肥祝原遺跡A～C区と大肥上村遺跡の報告を行い、大肥祝原遺跡D区については、別途報告の予定である。

(2) 調査経過と調査組織

大肥祝原遺跡ならびに大肥上村遺跡の発掘調査等の経過については、調査日誌に基づき、略述する。

5月15日/A区の表土剥ぎ、遺構検出を開始する。

6月16日/A区の空中写真撮影を行う。

6月21日/A区の調査が終了する。B区ならびにC区の表土剥ぎ、遺構検出を開始する。

8月4日/D区ならびに上村地区の立会調査を行う。

8月5日/B区の空中写真撮影を行う

8月9日/B・C区の調査が終了する。

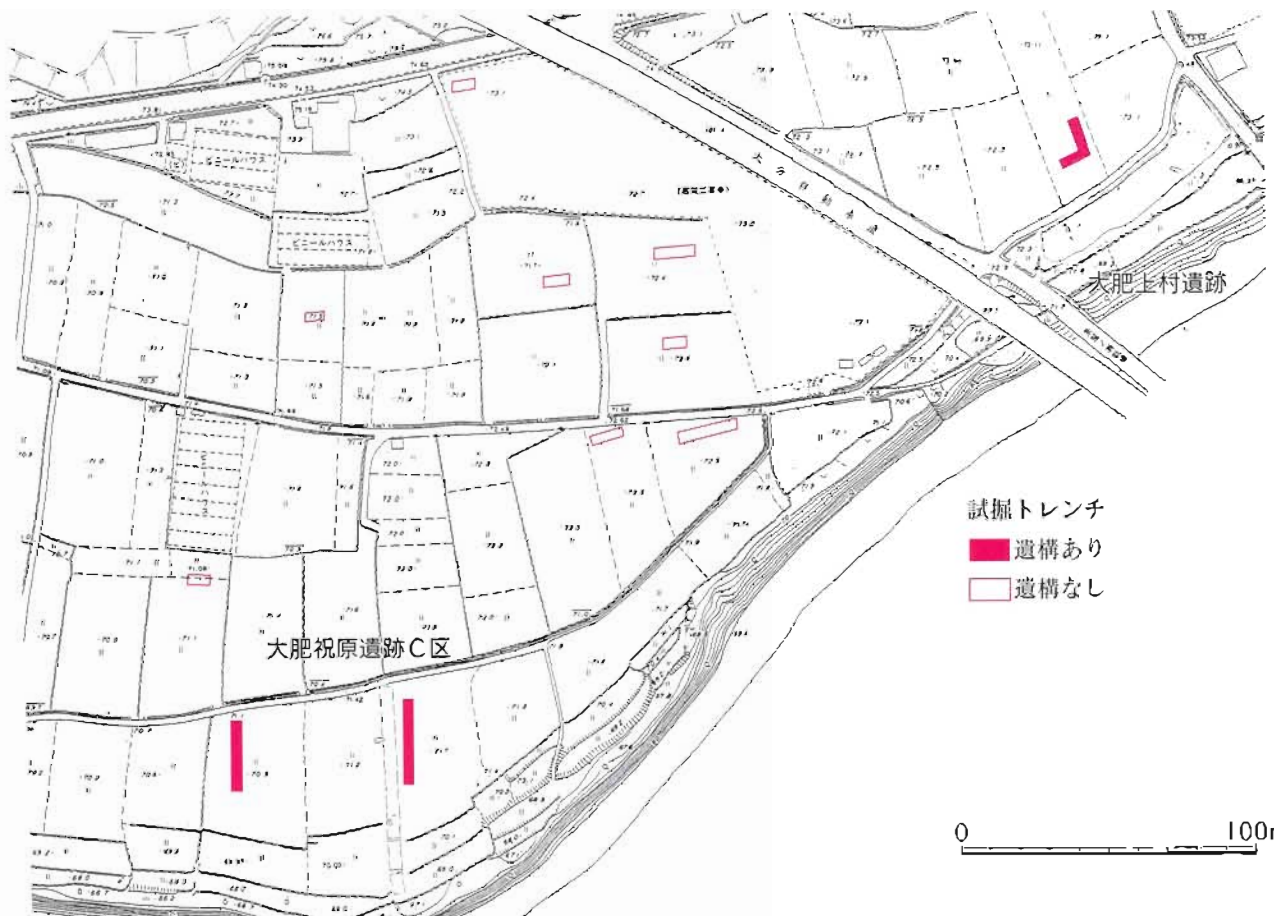
9月14日/D区の表土剥ぎ、遺構検出を開始する。

9月28日/大肥上村遺跡の表土剥ぎ、遺構検出を開始する。

10月29日/大肥上村遺跡の調査が終了する。

1月15日/D区の空中写真撮影を行う。

1月17日/D区の調査が終了する。



第1図 調査区位置図 (1/2,500)

なお、調査関係者については次のとおりである。

平成 11 ～ 15 年度（発掘調査・整理作業・報告書作成）

（平成 11 年度）

調査主体 日田市教育委員会
調査責任者 加藤正俊（日田市教育委員会教育長）
調査指導員 甲元真之（熊本大学教授）坂本嘉弘（大分県教育委員会文化課主幹）
調査統括 原田俊隆（同文化課課長）
調査事務 石井英信（同文化課課長補佐兼文化財係長）
佐々木豊文（同主査）美野寿美香（同臨時職員）
調査員 土居和幸（同文化財係主任）行時志郎（同文化財係主任）
吉田 博嗣（同文化財係主任）若杉竜太（同文化財係主事）
森山敬一郎（同文化財係嘱託）～平成 11 年 7 月
五十川雄也（同文化財係嘱託）平成 11 年 8 月～平成 12 年 3 月
発掘作業員 穂本文雄 有富房夫 有富富美子 有富領児 綾部豊 一ノ宮高喜
一ノ宮鉄成 一ノ宮森男 石井多吉 石井チエ子 伊藤智恵子 井上賢信
井上定敏 井上次夫 梅崎和子 梅原剛志 猪熊ヨネ 岡部進 岡部寿美恵
梶原静馬 蒲池千万子 財津真弓 高村笑美子 太郎良開 太郎良隆明
手嶋トシエ 原宗吉 藤江望 堀次雄 三浦陽子 三俣カツ子 三俣健
三俣松夫 森山国雄 森山熊夫 森山完潔 森山さち子 森山純義
森山春義 森山ミチ子 森山八重子 安岡正憲 和田常次郎 和田紀子
和田文子

（平成 12 年度）

調査主体 日田市教育委員会
調査責任者 加藤正俊（日田市教育委員会教育長）～ 11 月 14 日
後藤元晴（同教育長）11 月 15 日～
調査指導員 甲元真之（熊本大学教授）山田拓伸（大分県立歴史博物館学芸員）
坂本嘉弘（大分県教育庁文化課主幹）五十川雄也（大分県教育庁文化課嘱託）
調査統括 原田俊隆（同文化課課長）
調査事務 石井英信（同課長補佐兼文化財係長）佐々木豊文（同文化課主査）
江田香織（同文化課臨時職員）
調査員 行時志郎（同文化課主任）吉田博嗣（同文化課主任）
若杉竜太（同文化課主事）渡邊隆行（同文化課主事）

(平成 13 年度)

調査主体 日田市教育委員会
調査責任者 後藤元晴 (日田市教育委員会教育長)
調査指導員 橘昌信 (別府大学教授) 坂本嘉弘 (大分県教育庁文化課主幹)
調査統括 原田俊隆 (同文化課課長)
調査事務 石井英信 (同文化課課長補佐兼文化財係長) 島崎誠司 (同文化課主査)
園田恭一郎 (同文化課主任) 原田恭子 (同文化課臨時職員)
調査員 行時志郎 (同文化課主任) 吉田博嗣 (同文化課主任)
若杉竜太 (同文化課主事) 渡邊隆行 (同文化課主事)

(平成 14 年度)

調査主体 日田市教育委員会
調査責任者 後藤元晴 (同教育長)
調査統括 後藤清 (同文化課課長)
調査事務 田中伸幸 (同文化課文化財管理係長兼埋蔵文化財係長)
園田恭一郎 (同文化課主査) 酒井恵 (同文化課主事補)
調査員 土居和幸 (同文化課主査) 行時桂子 (同文化課主任)
若杉竜太 (同文化課主事) 渡邊隆行 (同文化課主事)

(平成 15 年度)

調査主体 日田市教育委員会
調査責任者 後藤元晴 (同教育長)
調査統括 後藤清 (同文化課課長)
調査事務 佐藤晃 (同文化課主幹兼埋蔵文化財係長)
園田恭一郎 (同文化課主査) 酒井恵 (同文化課主事補)
調査員 土居和幸 (同文化課主査) 行時桂子 (同文化課主任)
若杉竜太 (同文化課主事) 渡邊隆行 (同文化課主事)

(平成 11 ~ 13 年度)

整理作業員 朝倉真佐子 穴井トヨ子 石松裕美 井上とし子 今井由美子 石田紀代子
伊藤一美 伊藤弘子 宇野富子 鍛冶谷節子 梶原ヒトエ 黒木千鶴子
桑野純子 坂口豊子 坂本和代 佐藤みち子 中原琴枝 聖川暢子 平川優子
森山さち子 安元百合 吉田千津子 和田ケイ子

II 遺跡の立地と環境 (第2図)

大肥祝原遺跡は日田盆地の西側に位置する大肥川沿いに開けた谷に位置する。大肥川は日田市最北端に位置する岳滅鬼山に源を発する鶴河内川と福岡県小石原村に源を発する小石原川が谷の北部で合流した後、南流し、三隈(筑後)川と合流する。この谷は鶴河内川と小石原川との合流点より三隈川までの合流点まで長さはおよ4.7km、幅は最大で約400mと狭隘な谷といえる。

大肥祝原遺跡は大肥川と三隈川との合流点より約600m上流の左岸に位置する。大肥祝原遺跡の周辺は川の右岸は山地斜面が川のそばまで迫っているのに対し、調査区の位置する右岸は緩やかな河岸段丘が見られ、山裾に現在の集落、それと川との間に耕作地が広がっている。

次に大肥川沿いの遺跡を概観する。鶴河内川左岸の河岸段丘上にある大肥条里下河内地区では縄文時代前期の集石が確認されている。また、小石原川左岸の河岸段丘上にある大肥条里吉竹地区では縄文時代中期の船元式土器が確認されたほか、古墳時代後期から奈良時代にかけての竪穴住居跡や掘立柱建物など、集落の存在が確認されている。この2つの河川が合流して、約900m下流右岸にある大肥条里大肥地区では弥生時代中期から後期の集落や中期の甕棺墓・石棺墓が確認されている。この墓地群の西側では当時の旧河道が確認され、その中からは三叉鍬や鋤などの木製農具、県内初例となる木製短甲など、大量の木製品が出土している。大肥条里大肥地区の対岸、大肥川左岸の沖積地に広がる大肥中村遺跡では弥生時代中期～後期にかけての木棺墓・甕棺墓・石棺墓が確認されている。古墳時代以降、掘立柱建物や鍛冶遺構、墓池などが多数確認されている。

これまでの調査でこの地域が北部九州から日田盆地への弥生文化の流入ルートとしての位置づけや、また、現代にいたるまでの稲作を中心としたこの地域の歴史を垣間みることが可能になってきている。

参考文献

行時志郎編『大肥中村遺跡―発掘調査概報―』

日田市教育委員会 2003



第2図 周辺遺跡分布図 (1/30,000)

Ⅲ 調査の内容

(1) 調査の概要

調査区はその地点からA～D区の4区に分けた。A区は夜明小学校南側、B区は同北側、C区はB区より北に約230mの地点にある。別途報告するD区については、夜明小学校東側に位置する。A区は現在の水田を作る際に大きく削平を受けていると見られ、遺構は竪穴遺構2基と土坑6基、柱穴が確認されたのみで遺物の量も極端に少なかった。B区はA区に比して、削平の度合いは低く、竪穴遺構1基、土坑12基、柱穴が多数確認され、遺物量も多かった。さらに川側へ行くにつれ、良好な状態で遺構は残存していた。C区については水路幅のみの調査であった上、かなり削平を受けているとみられ、遺構も土坑2基、柱穴数個のみで、遺物も数点しか出土しなかった。D区については、A区の北側に隣接するものの、削平の度合いは少なく、遺構検出面は縄文時代後晩期の良好な遺物包含層で多数の遺構・遺物が確認された。

(2) 大肥祝原遺跡A区の遺構と遺物 (第3図・図版1)

A区では竪穴遺構2基と土坑6基、柱穴が多数検出された。

1号竪穴遺構 (第4図・図版2)

1号竪穴遺構の南側約20mの地点で確認された。平面形は1号竪穴遺構同様、不定形で規模は最大長約4m、最大幅約3.5m、検出面からの深さは約40cmである。中央部に若干のくぼみが見られる。また北側と南側にはピットが見られるが、この遺構に伴うものか、定かではない。埋土中より石皿、石鏃が出土している。

2号竪穴遺構 (第5図・図版2)

調査区の中央のやや南よりで確認された。平面形は不定形で規模は最大長約6.8m、最大幅約5.3m、検出面からの深さは約20cmである。北側にはベッド状の高まりが見られ、床面にピットが数個確認できた。遺物は出土しなかった。

1号土坑 (第6図・図版3)

調査区の南東側で確認された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸0.97m、短軸0.51mである。2段掘りになっており、上段までの深さは27cm、下段までの深さは51cmである。遺物は出土しなかった。

2号土坑 (第6図・図版3)

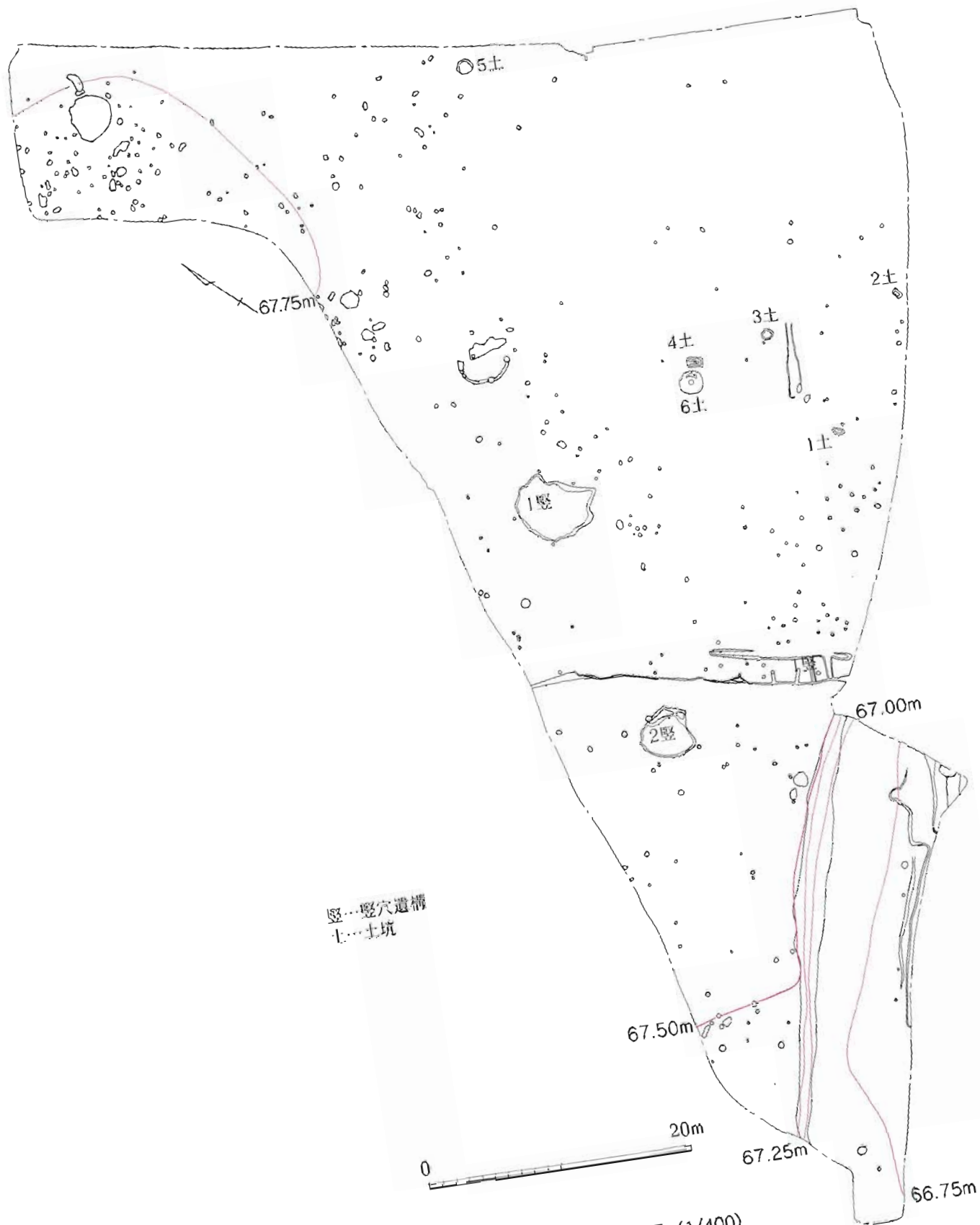
1号土坑の東側で確認された。平面形はほぼ方形を呈し、規模は長軸0.78m、短軸0.42m、検出面からの深さは33cmである。壁はほぼ垂直に立ちあがる。遺物は出土しなかった。

3号土坑 (第6図・図版3)

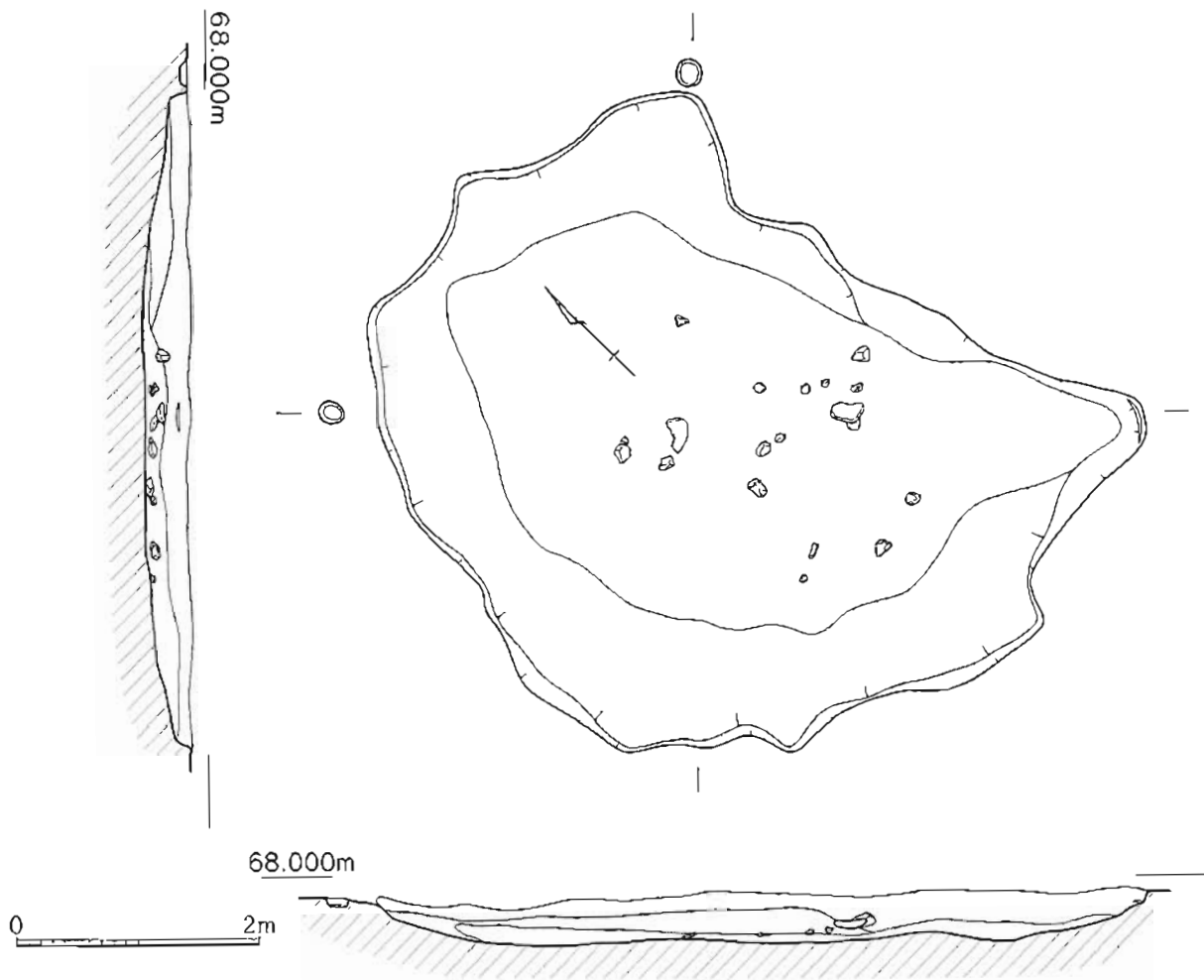
1号土坑の北側で確認された。平面形はやや縦長の円形を呈する。規模は長軸0.99m、短軸0.72mで、検出面からの深さは21cmである。2号土坑と同様に壁はほぼ垂直に立ちあがる。

4号土坑 (第6図・図版3)

3号土坑の西側で確認された。平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸1.23m、短軸0.84mで



第3图 A区遺構配置图 (1/400)



第4図 1号竖穴遺構実測図 (1/60)

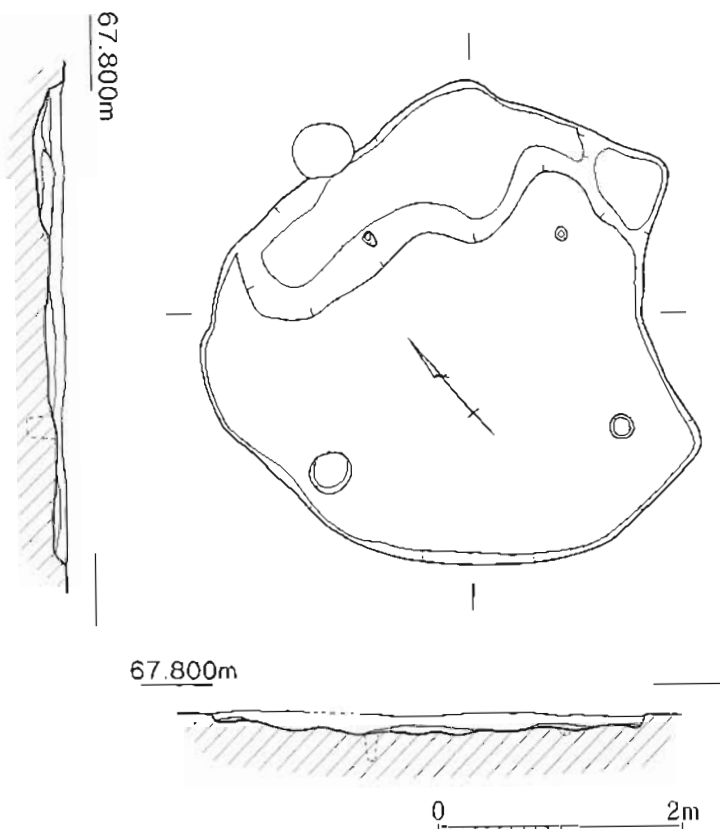
である。土坑内は2段掘りになっており、検出面から上段までの深さは21cm、下段までの深さは28cmである。遺物は出土しなかった。

5号土坑 (第6図・図版4)

調査区の北東側で確認された。平面形は円形を呈し、規模は径約1.2mである。土坑内は1、4号土坑と同様に2段掘りになっており、検出面から上段までの深さは39cm、下段までの深さは51cmである。遺物は陶器碗が1点出土している。

6号土坑 (第7図・図版4)

4号土坑の南西側で確認された。平面形はほぼ円形を呈し、規模は径約1.8m、検出面からの深さは69cmで

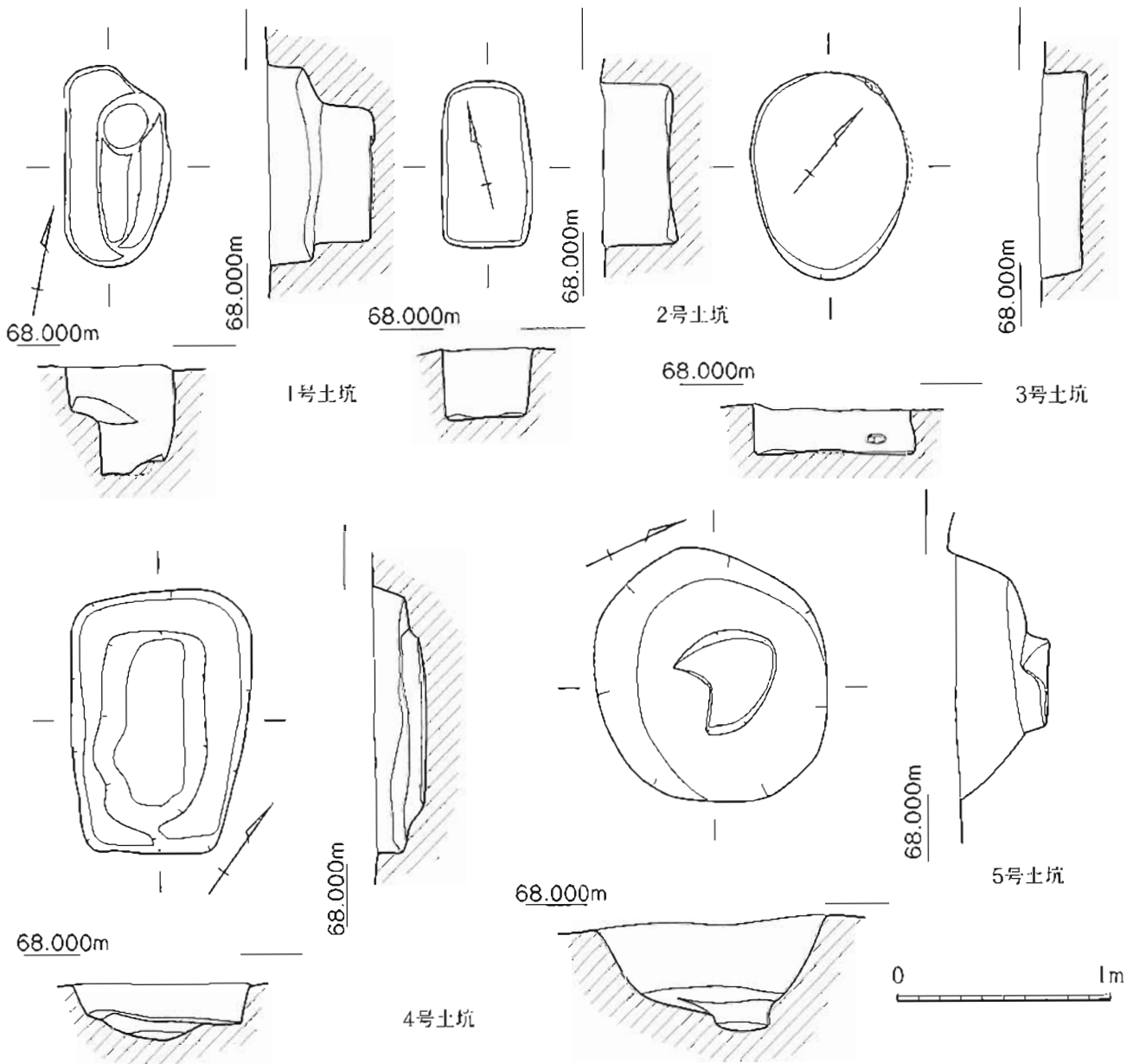


第5図 2号竖穴遺構実測図 (1/60)

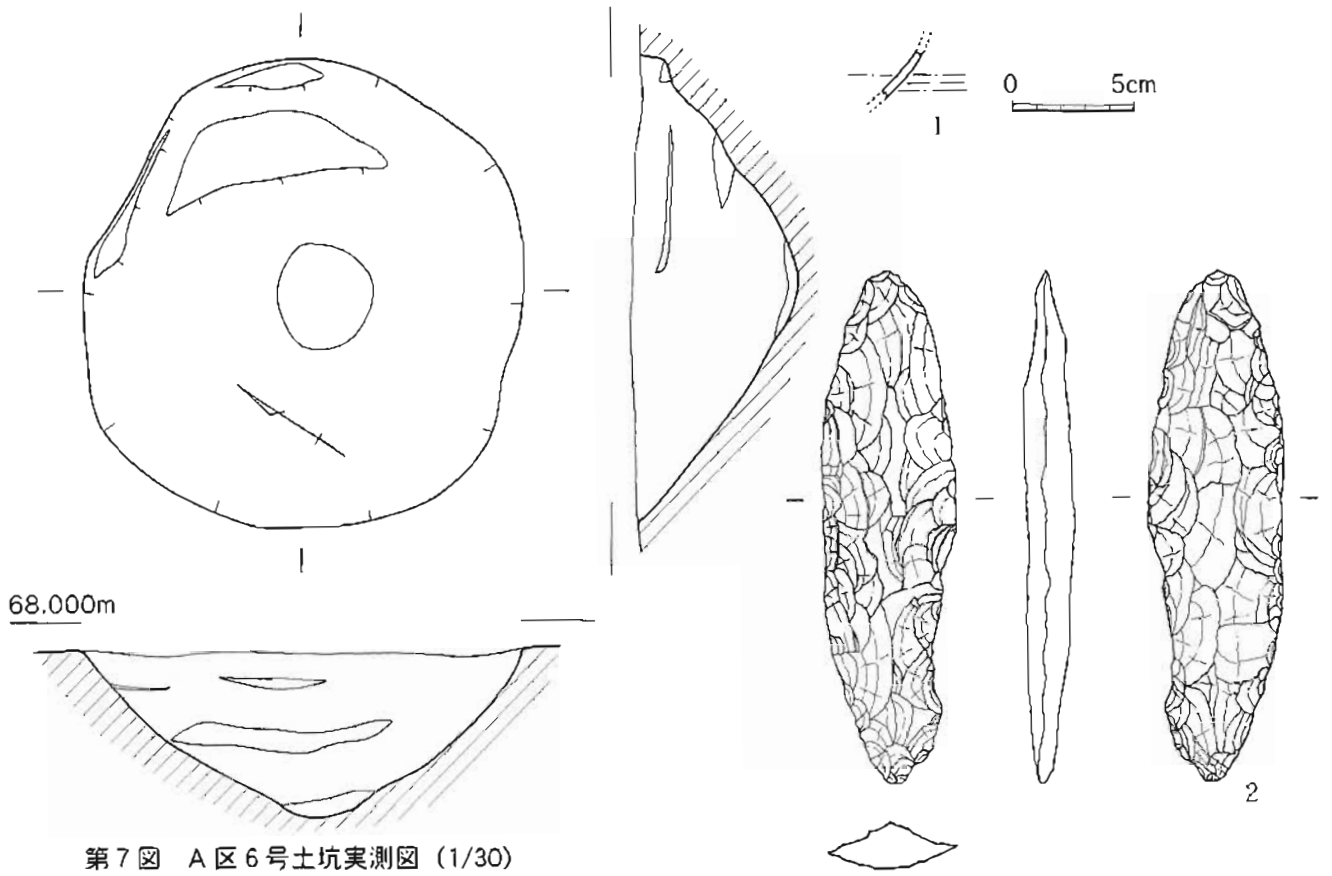
ある。土坑内は底面に向かって断面三角形を呈するように壁が立ち上がる。

A区出土遺物 (第8図・図版13)

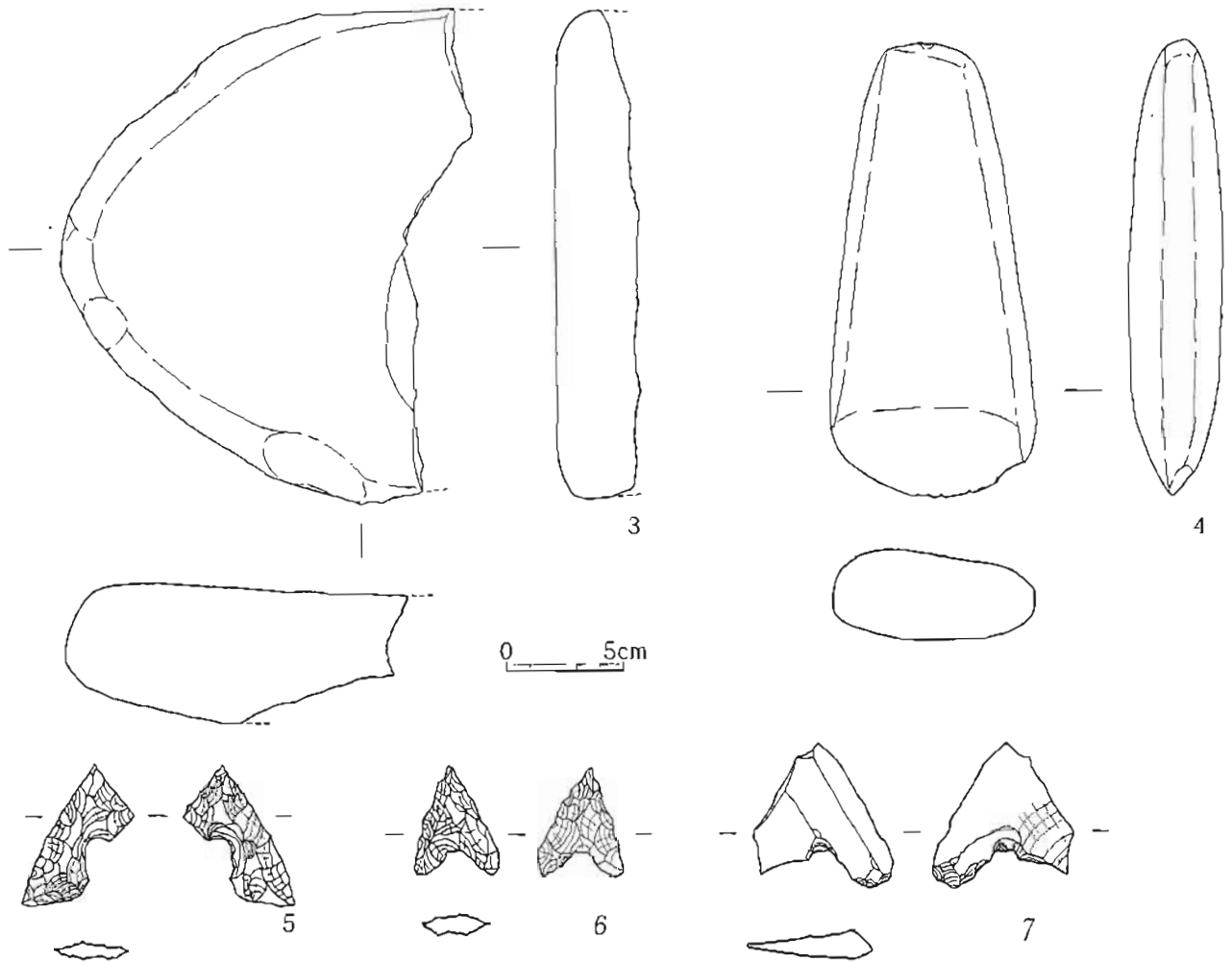
1は5号土坑より出土した陶器椀である。赤茶色系の施釉がみられ、回転ヘラケズリの痕跡が残る。近世期のものと考えられる。2は安山岩製の尖頭器である。完形で長さ13.4cm、最大幅3.6cmである。3は片岩製の磨製石斧である。刃部の一部を欠くが、ほぼ完形で長さ12.6cm、最大幅5.8cmである。ある。4は安山岩製の石皿である。片面は一部欠いており、残存面には磨滅が見られる。5～7は2号堅穴遺構より出土した。5・6は黒曜石製の石鏃で、5は完形、6は基部の一部を欠く。7は石鏃の未製品である。



第6図 A区1～5号土坑実測図 (1/30)



第7图 A区6号土坑实测图 (1/30)



第8图 A区出土遗物实测图 (1/1·1/2·1/3)

(2) 大肥祝原遺跡B区の遺構と遺物 (第9図・図版1)

B区では竪穴遺構1基、土坑12基、柱穴が多数確認された。

1号竪穴遺構 (第10図・図版5,6)

調査区の中央東側で確認された。東側は調査区外へ広がっており、平面形は方形もしくは長方形を呈すると思われる。規模は4.56 m×1.02 m+α、検出面からの深さは約50cmである。埋土中には多数の礫が見られ、遺物も多数出土した。

1号竪穴遺構出土遺物 (第11図・図版13)

いずれも弥生土器である。1～4は甕、5・6は高杯である。1は口縁部から胴部にかけて残存しており、頸部近くに断面三角形の突帯を貼り付ける。2～4は底部でいずれも底面は上げ底気味である。4は外面に縦方向のハケ、内底面には指押えがみられる。5は杯部から頸部にかけて残存しており、赤色顔料を塗布する。内面にはミガキが施されている。6は杯部のみが残存である。5と同様に赤色顔料が塗布されている。

1号土坑 (第12図・図版5)

調査区の南西端で確認された。平面形は不定形を呈し、規模は長軸1.98 m、短軸1.53 mである。検出面からの深さは20cmで、壁は垂直に立ちあがる。遺物は出土しなかった。

2号土坑 (第12図・図版5)

1号土坑の北側で確認された。平面形はほぼ円形を呈し、規模は径2.1 mである。土坑内は2段掘りになっており、検出面からの深さは上段まで約45cm、下段までの深さは約60cmである。遺物は弥生土器が出土している。

2号土坑出土遺物 (第16図・図版13)

1～4はいずれも弥生土器で1・2は甕である。1は口縁端部である。外側は下にやや垂れ下がる。2は頸部下部に断面「M」字形の突帯を貼り、その下部にはミガキが施される。4は壺である。頸部に断面三角形の突帯を貼り付ける。

3号土坑 (第13図・図版6)

2号土坑の北側で確認された。平面形はほぼ円形を呈し、規模は径1.5 m、検出面からの深さは約45cmである。遺物は出土しなかった。

4号土坑 (第13図・図版6)

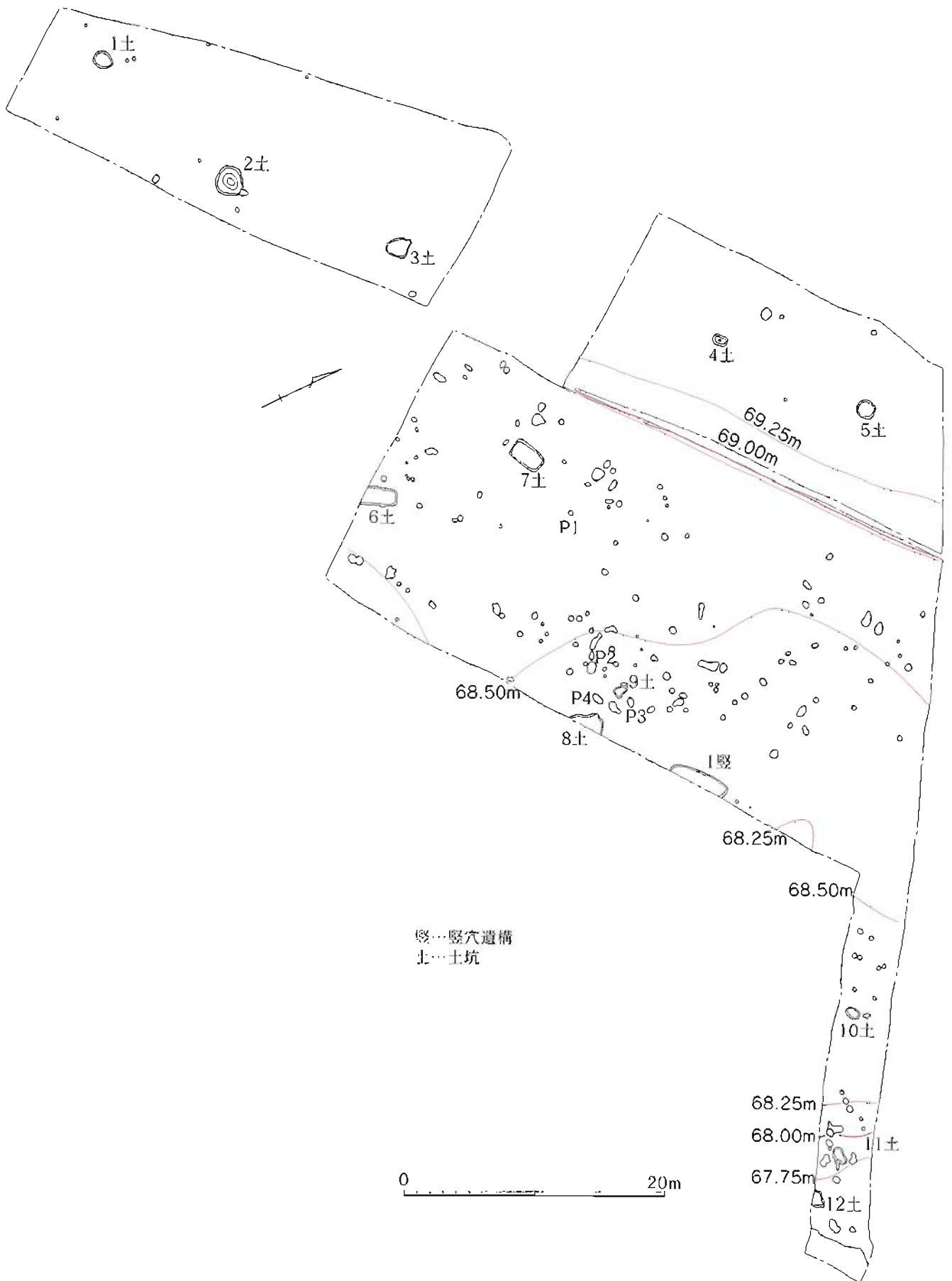
3号土坑の北側で確認された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸1.22 m、短軸0.75 m、検出面からの深さは30cmである。土坑内底面は後世の掘り込みと考えられる。

5号土坑 (第13図・図版7)

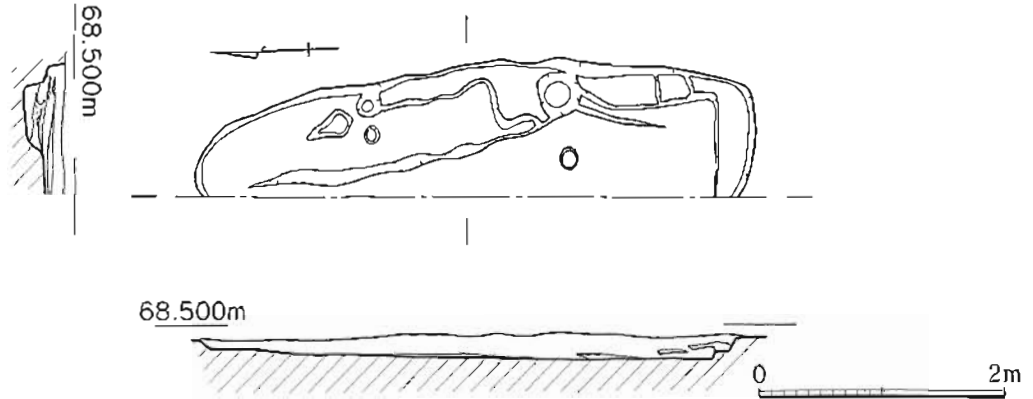
4号土坑の北側で確認された。平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸1.38 m、短軸1.35 mである。上坑内は2段掘りになっており、検出面からの深さは上段が12cm、下段が39cmである。遺物は出土しなかった。

6号土坑 (第14図・図版7)

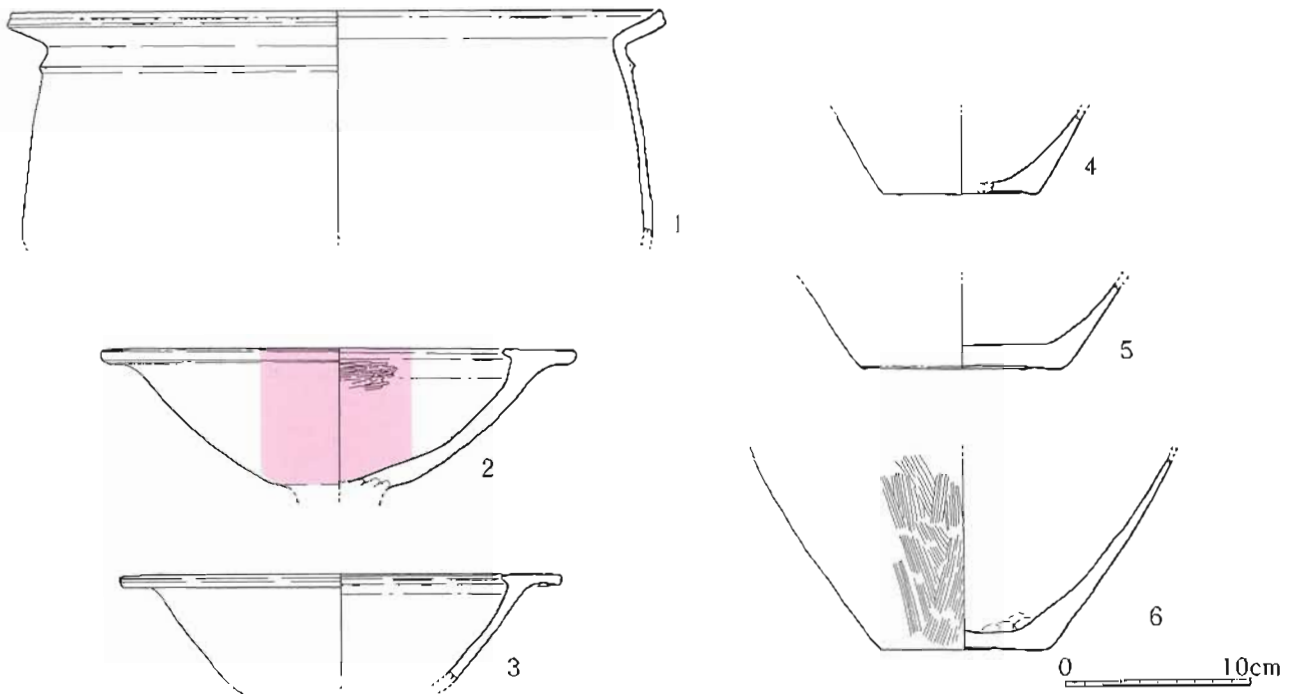
調査区の中央南側で確認された。平面形は長方形を呈し、調査区外へ広がる。規模は長軸2.61 m+α、短軸1.32 m、検出面からの深さは33cmである。断面形は舟底状を呈する。埋土には



第9図 B区遺構配置図 (1/400)



第10図 B区1号竪穴遺構実測図 (1/60)



第11図 B区1号竪穴遺構出土遺物実測図 (1/4)

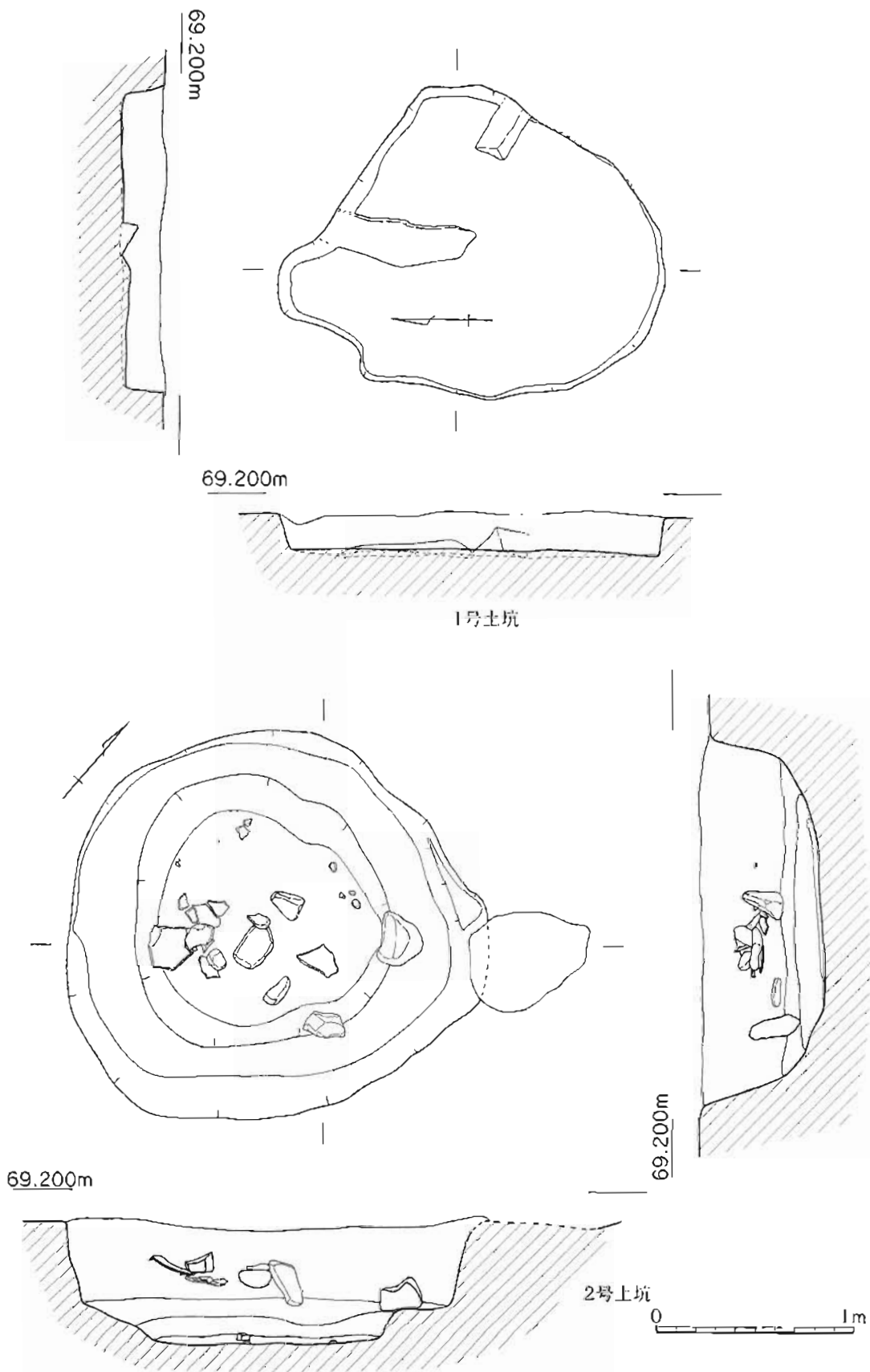
大量の炭・焼土が含まれ、底面は被熱のため、非常に固く締まっていた。短軸側にはピットがみられ、このピットは反対側にもあると考えられる。何らかの焼成坑と考えられ、ピットを利用して屋根を架してした可能性も考えられる。弥生土器が数点出土している。

6号土坑出土遺物 (第16図・図版13)

4～6はいずれも弥生土器の甕である。4は口縁部から胴部にかけて残存しているが、摩耗が激しく、調整は不明である。5は甕の口縁部である。端部を跳ね上げており、外面には縦方向のハケが見られる。6は甕の底部である。底面はわずかに上げ底気味である。

7号土坑 (第14図・図版8)

6号土坑の北西側で確認された。平面形は6号土坑同様に長方形を呈し、規模は長軸2.58m、短軸1.47m、検出面からの深さが20cmである。断面形は舟底状を呈し、埋土には炭・焼土が大量に含まれ、底面は焼土で固く締まっていた。また、四隅にピットが掘り込まれている状況



第12图 B区1·2号土坑实测图(1/30)

も6号土坑と同様で号土坑と同様である。遺物は土器片が少量出土したのみである。

8号土坑 (第15図・図版8)

1号竖穴遺構の南側で確認された。平面形は方形、もしくは不定形を呈すると考えられ、調査区外へ展開している。規模は調査区の壁際で2.76m、もう一方の軸は最大で1.32m + α である。また、検出面からの深さは49cmである。土坑内には礫が含まれていた他、弥生土器も出土している。

8号土坑出土遺物

(第17図・図版13)

1～9はいずれも弥生土器の甕である。1～5は口縁部片である。1～3は口縁端部を跳ね上げ、3は頸部下部に断面三角形の突帯を貼り付ける。6～9は甕底部である。いずれも底面は上げ底であるが、9は底面端部が若干の丸みを帯びる。7の外面に縦方向のハケがみられ他は摩耗のため、調整は不明である。

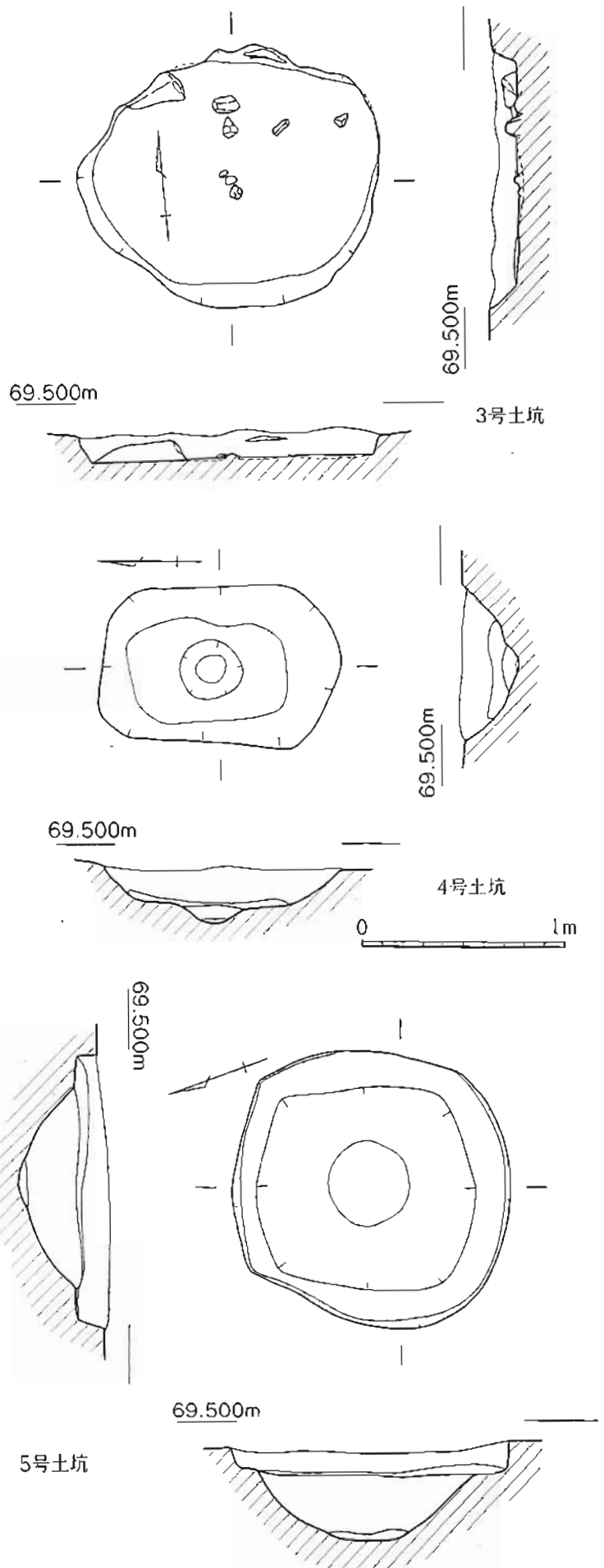
9号土坑 (第15図・図版9)

8号土坑の西側で確認された。平面形は不定形を呈し、規模は長軸1.26m、短軸0.86m、検出面からの深さは20cmである。遺物は弥生土器が出土している。

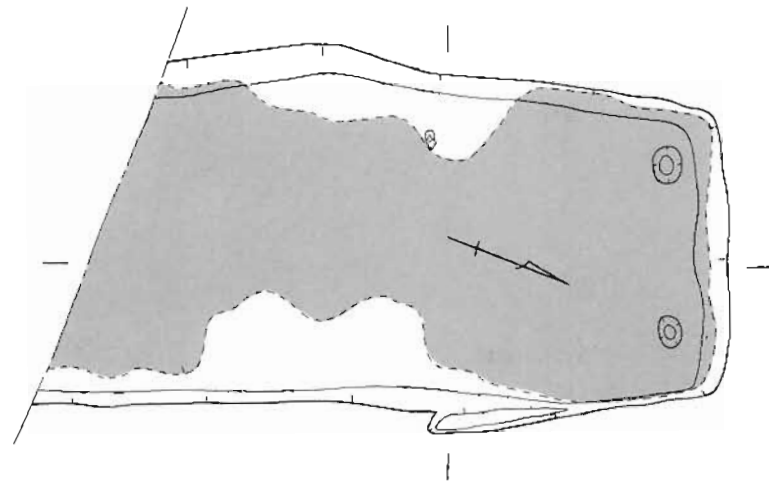
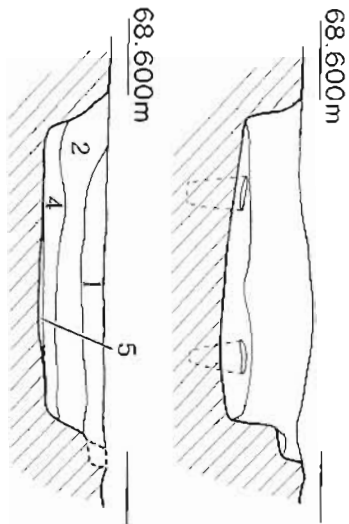
9号土坑出土遺物

(第17図・図版13)

10～14は弥生土器の甕、15は高杯である。甕はいずれも口縁端部を跳ね上げている。11・13は口縁端部に沈線がみられ、12の外面には縦方向のハケが残存している。また、13については胴部が丸みを帯びるタイプである。15は脚部から杯部下半にかけて



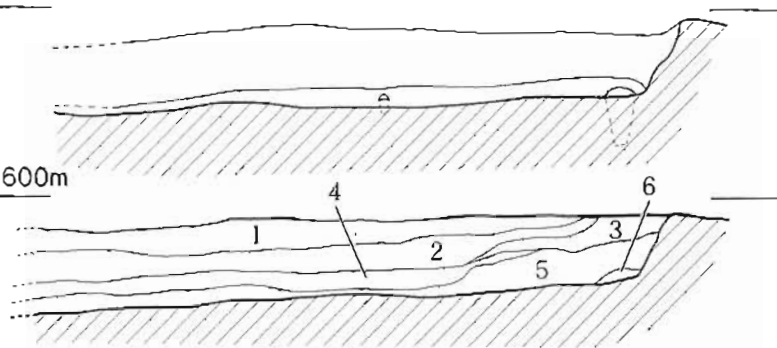
第13図 B区3～5号土坑実測図 (1/30)



- 1層 暗褐色粘質土
- 2層 暗褐色粘質土、炭層
- 3層 黒色粘質土、炭層
- 4層 黒褐色粘質土
- 5層 赤褐色粘質土、焼土層
- 6層 黒色粘質土、炭層

68.600m

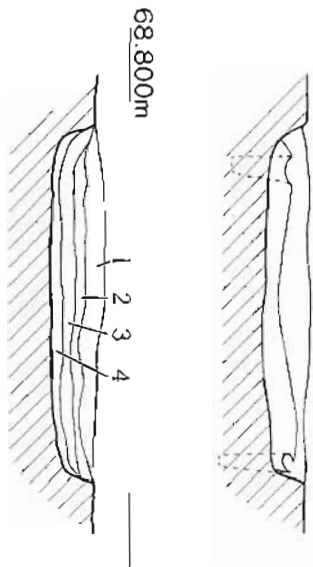
68.600m



6号土坑

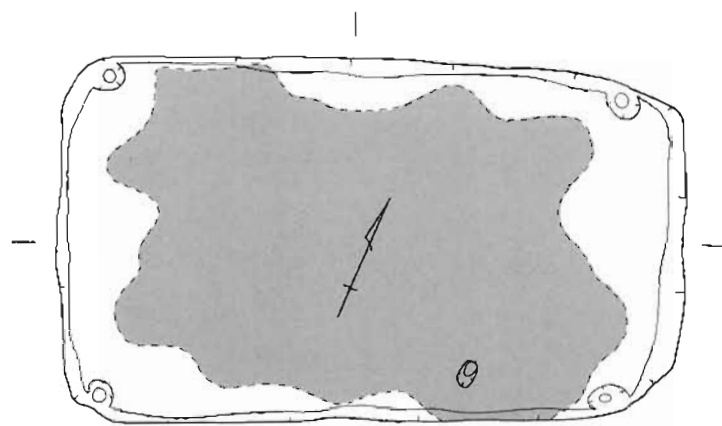


※トーンは焼土



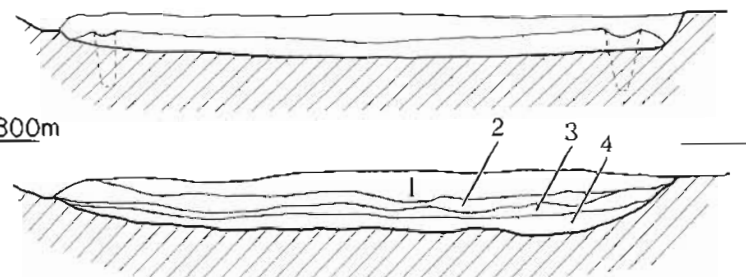
68.800m

68.800m



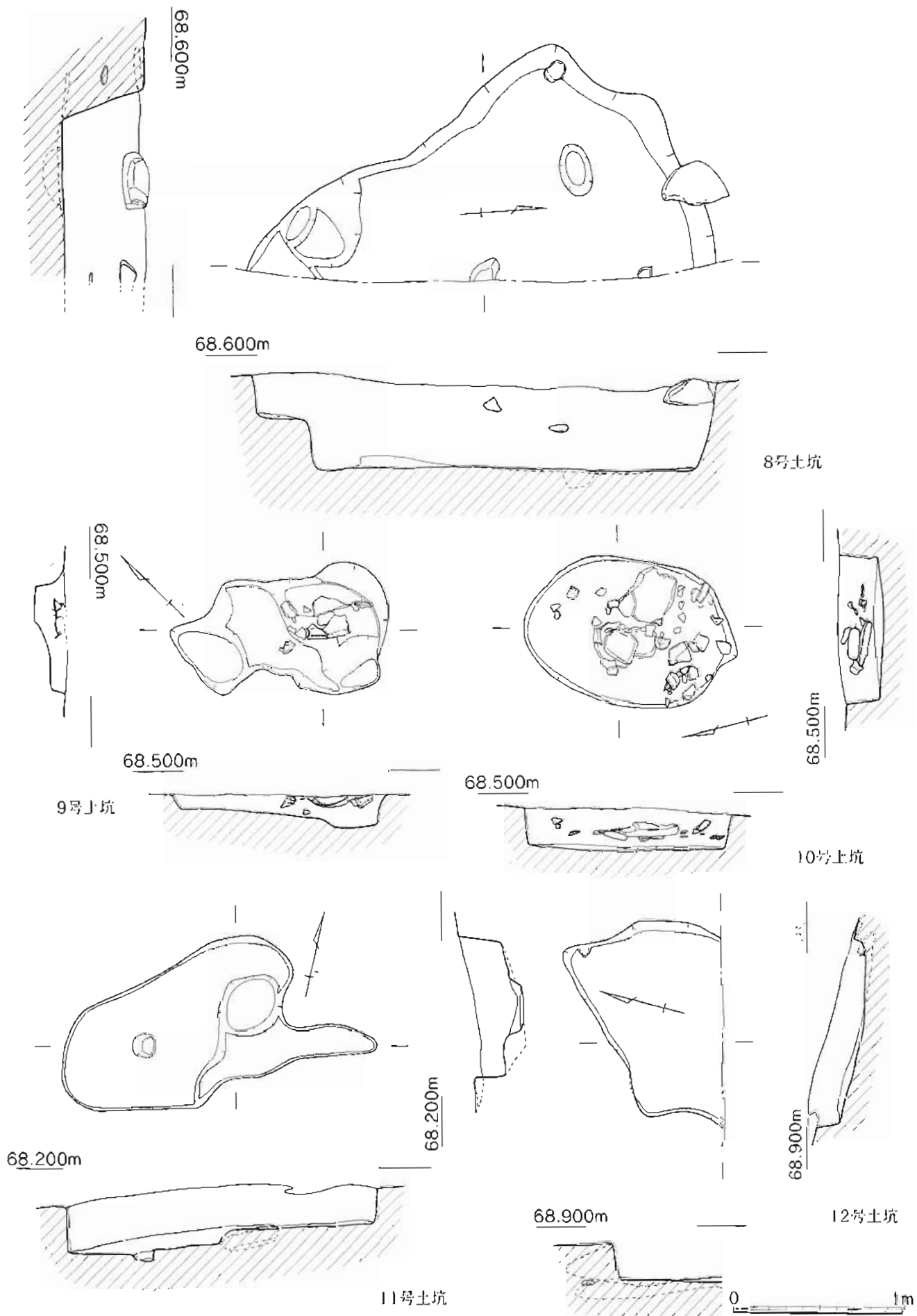
- 1層 暗褐色粘質土
- 2層 暗褐色粘質土、炭層
- 3層 黒色粘質土、炭層
- 4層 赤褐色粘質土、焼土層

68.800m



7号土坑

第14図 B区6・7号土坑実測図 (1/30)



第15图 B区8~12号土坑实测图 (1/30)

て残存している。赤色顔料の塗布は見られない。

10号土坑(第15図・図版9)

調査区の北東側で確認された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸1.22m、短軸1.13m、検出面からの深さは30cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面はほぼ水平である。遺物は弥生土器が出土している。

10号土坑出土遺物

(第17図・図版13)

16～19はいずれも弥生土器である。16は甕の口縁部である。15は外面頸部下部に縦方向のハケが施され、17は口縁端部を跳ね上げる。17・18は甕の底部である。いずれも底面は上げ底であるが、内底面までの厚みから18の時期は若干古いと思われる。18・19と外面にはやや斜め方向のハケが施されている。

19は鉢で口縁端部を内面にわずかにつまみ出している。

11号土坑

(第15図・図版10)

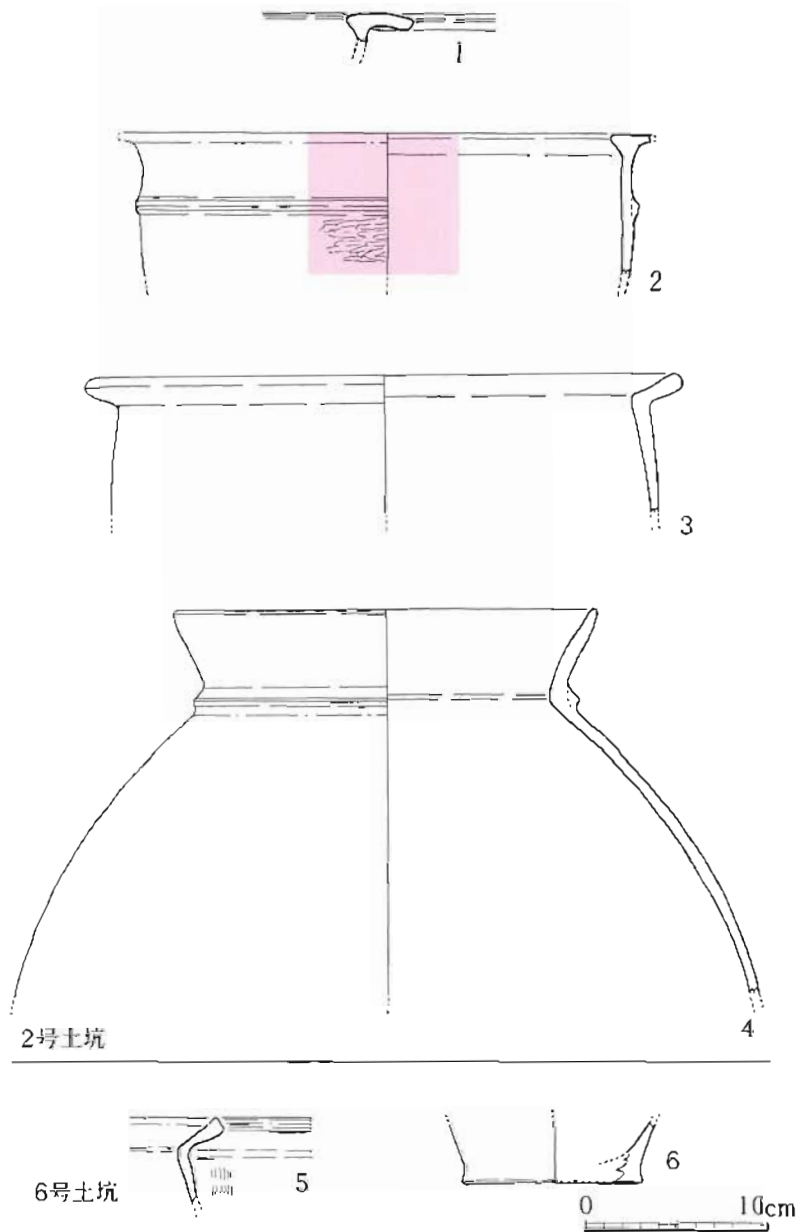
10号の東側で確認された。平面形は不定形を呈し、規模は長軸が最大で1.83m、短軸0.80m、検出面からの深さは30cmである。底面は段が見られ、壁は垂直に立ち上がる。遺物は出土しなかった。

11号土坑出土遺物(第17図・図版13)

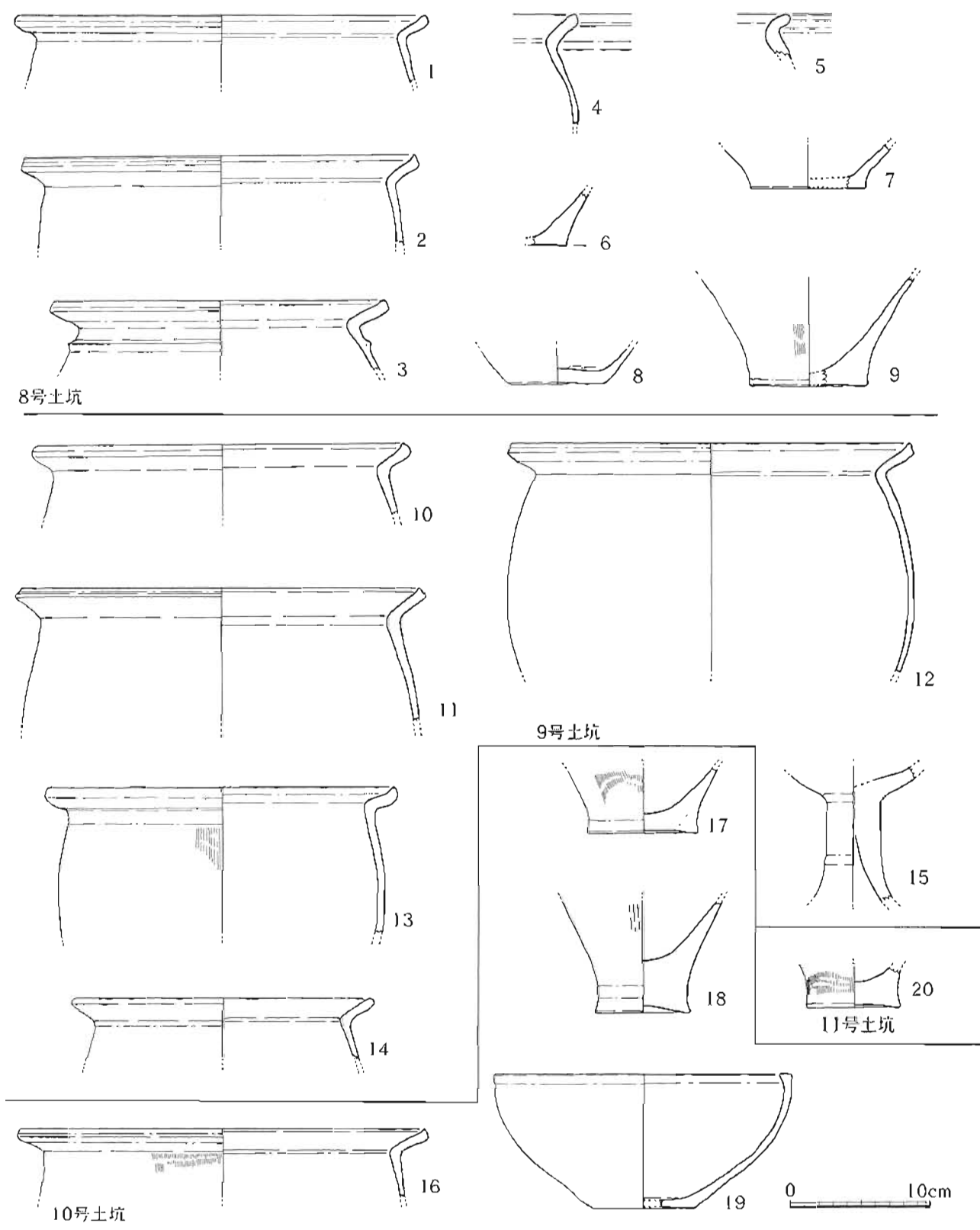
20は甕の底部である。やや上げ底気味で外面には縦方向のハケが施される。

12号土坑(第15図・図版10)

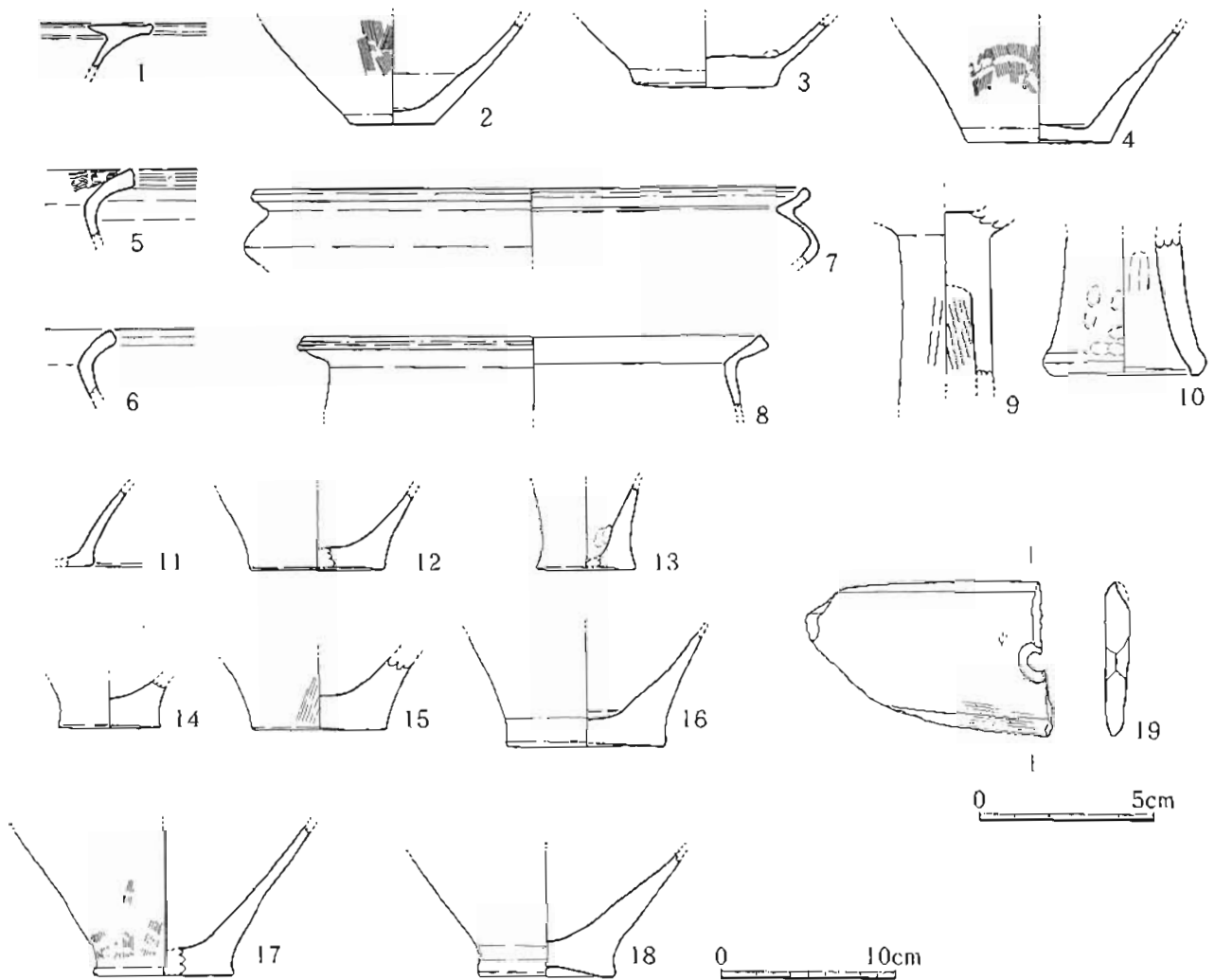
11号土坑の東側で確認された。平面形は不定形を呈し、調査区外へ展開する。規模は長軸1.11m+α、短軸0.66mである。底面は西側から東側に向かって、緩やかに傾斜をもつ。遺物は出土しなかった。



第16図 B区2・6号土坑出土遺物実測図(1/4)



第17图 B区8~11号土坑出土遗物实测图 (1/4)



第18図 B区柱穴及び一括出土遺物実測図 (1/4・1/2)

柱穴出土遺物 (第18図・図版13・14)

1～4は柱穴出土遺物である。1は高杯の口縁部である。2～4は甕の底部である。2・4は外面に斜め方向のハケ、3は内底面に指押えがみられる。

一括遺物 (第18図・図版14)

5～19はB区の一括遺物である。5は高杯の口縁部である。6・7・9は甕の口縁部である。6は内面に横方向のハケがみられ、端部には沈線がみられる。8は壺である。口縁部外面に1条の沈線が見られる。10は高杯の脚部である。外面にはケズリが見られる。11は器台である。脚端部を内側につまみ出す。外面には指押さえ、内面にはナデ痕が見られる。12～18は甕の底部である。いずれも底部は上げ底である。14は内面に指押え、15・17は外面にハケが見られるが、その他のものは摩耗が激しく、調整は不明である。19は片岩製石包丁である。欠損のため全体の1/3が残るのみである。擦痕が一部見られる。

(4) 大肥祝原遺跡C区の遺構と遺物 (第19図)

C区はB区の北約250mの地点にあり、調査面積は m^2 である。遺構は土坑2基、柱穴数個が確認された。

1号土坑 (第20図・図版10)

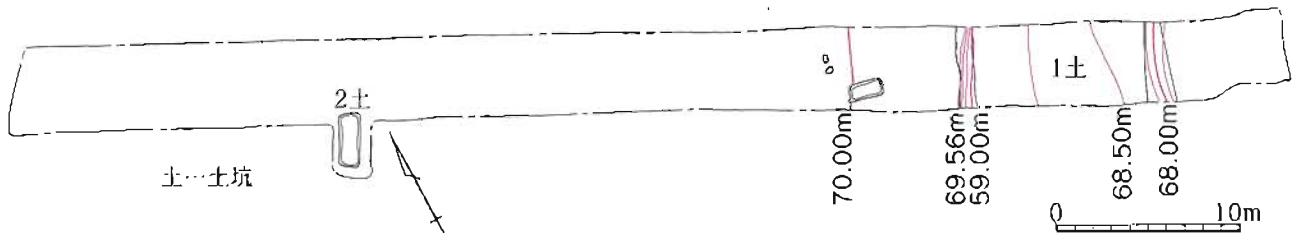
調査区の東側で確認された。平面形はほぼ長方形を呈し、規模は長軸1.95m、短軸1.02m、検出面からの深さは45cmである。遺物は甕が出土している。

1号土坑出土遺物 (第20図)

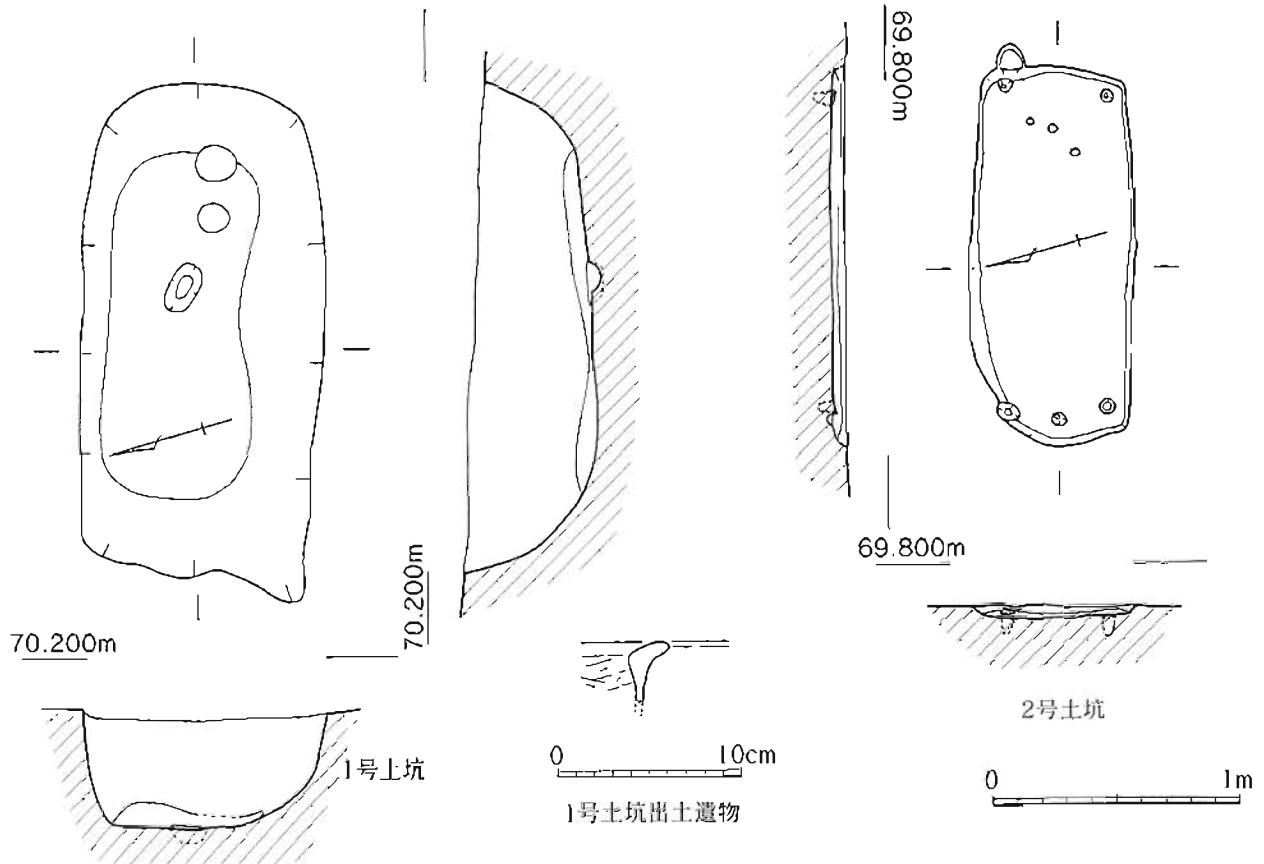
1は甕の後円部である。内面にケズリが施されている。

2号土坑 (第20図)

1号土坑の北東側で確認された。平面形はほぼ長方形を呈し、規模は長軸1.54m、短軸0.68m、検出面からの深さは10cmである。遺物は出土しなかった。



第19図 C区遺構配置図 (1/400)



第20図 C区1・2号土坑 (1/30) 及び出土遺物実測図 (1/4)

(5) 大肥上村遺跡の遺構と遺物 (第21図・図版11)

大肥上村遺跡は大肥祝原遺跡の北側約500mにある。大肥川の沖積地に位置し、調査区の東側は約20mで川となる。調査では甕棺墓1基と土坑4基、柱穴数個が確認された。

1号甕棺墓 (第22図・図版11)

調査区の北側で確認された。削平が著しく、下部がわずかに残存している程度であった。墓坑下部は平面形がほぼ円形を呈し、底面まで深さは約10cmである。副葬品などの遺物は確認されなかった。

1号土坑 (第23図・図版14)

第22図の下は1号甕棺墓に使用された甕である。胴部の下部がおよそ1/3ほど残存していると考えられる。底部はレンズ状を呈し、内面には指押さえが施されている。

1号土坑 (第23図・図版11)

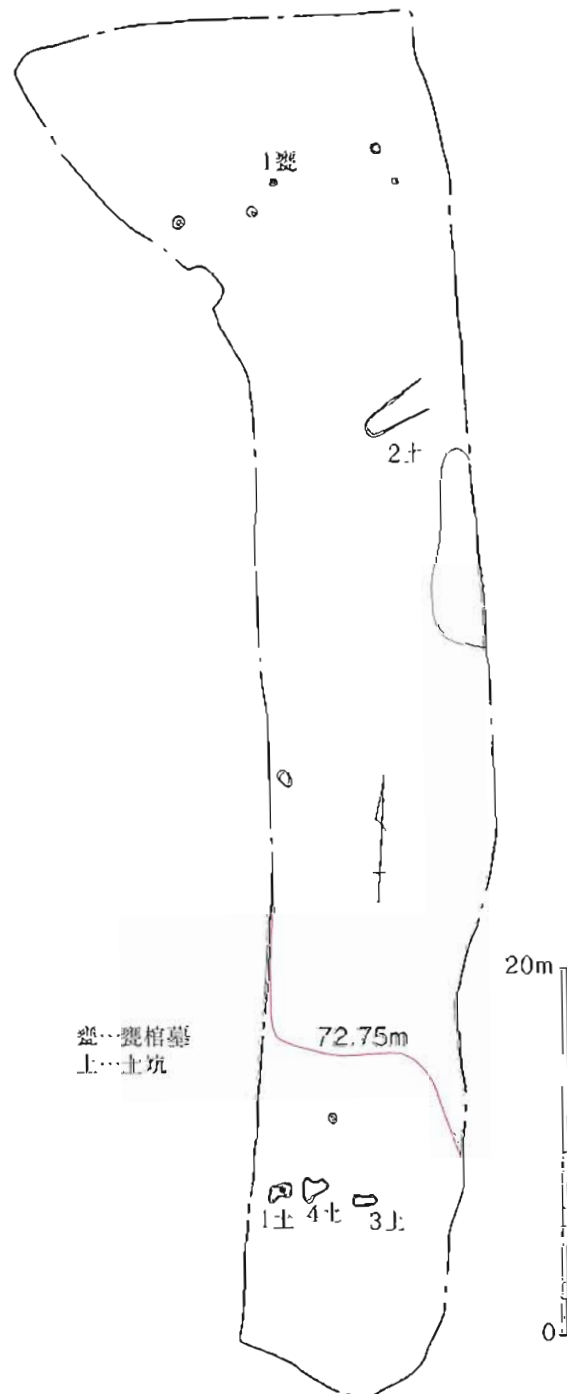
調査区の北側で確認された。平面形は不定形を呈し、規模は長軸1.35m、短軸0.92mである。内部は2段掘りになっており、検出面からの深さは上段まで10cm、下段まで15cmである。遺物は弥生土器の小破片が出土した。

2号土坑 (第23図・図版12)

調査区の南側で確認された。西側は削平を受け、残存していないが、規模は長軸約1.8m+α、短軸0.78m、検出面からの深さは約10cmである。土坑底部はほぼ水平である。埋土に焼土が少量混じっており、平面形・埋土の状況から大肥祝原遺跡B区6・7号土坑と同様の性格を持っていた可能性もある。遺物は出土しなかった。

3号土坑 (第23図・図版12)

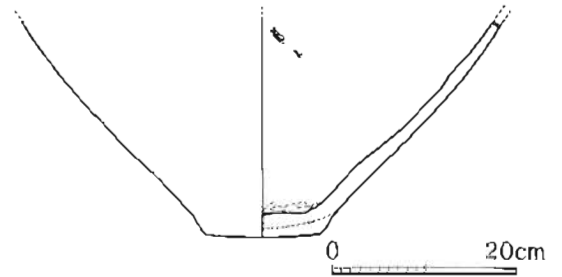
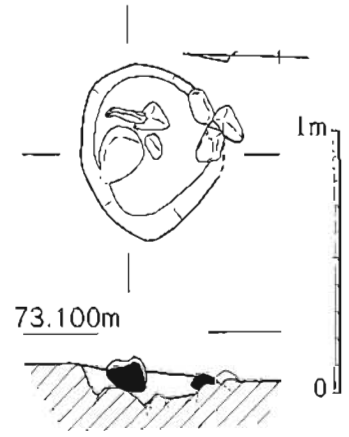
1号土坑の西側で確認された。平面形は中央部がやや窪む橢円形を呈し、規模は長軸1.62m、短軸0.97m、検出面からの深さは15cmである。土坑底部はほぼ水平である。遺物は出土しなかった。



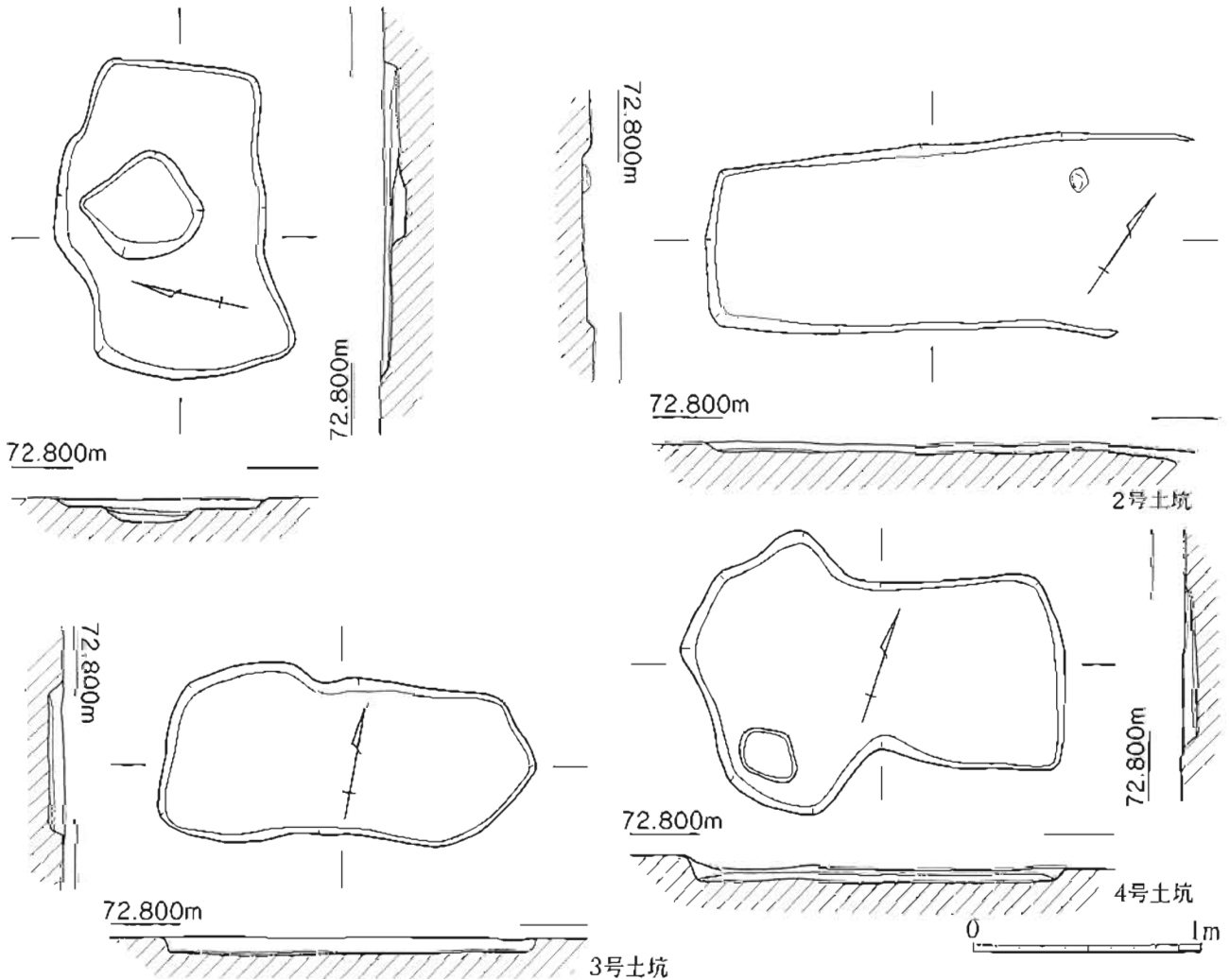
第21図 上村地区遺構配置図 (1/400)

4号土坑 (第23図・図版12)

1号土坑と3号土坑の間で確認された。平面形は不定形を呈し、規模は長軸1.62m、短軸0.75m、検出面からの深さは10cmである。土坑内は後世の掘り込みと思われるピットがあるが、その部分以外はほぼ水平である。遺物は出土しなかった。



第22図 上村地区1号甕棺墓 (1/30)
及び1号甕棺実測図 (1/8)



第23図 上村地区1～4土坑実測図 (1/30)

IV まとめ

今回報告した大肥祝原遺跡A～C区および大肥上村遺跡の調査では、弥生時代中期から後期にかけての遺構が確認された。A区については、遺構密度は低く、2基の竪穴遺構、6基の土坑が確認されたのみであった。また、遺物についても遺構出土のものは、ほとんどが小破片で実測可能なものはほとんどない状況であった。竪穴遺構については、1号竪穴遺構の埋土中より石皿や石鏃が出土したが、全体的には遺物の点数は少ない。その他の土坑については弥生土器の小片が出土していることから、当該期の遺構と考えられる。ただし、6号土坑については近世期の陶器碗が出土しているが、流れ込みと考える方が妥当であろう。

B区については、竪穴遺構1基、土坑12基が確認された。このうち、1号竪穴遺構、2・6・8～10号土坑で遺物が出土している。

1号竪穴遺構については、弥生時代中期後半頃の高杯・甕底部が出土している。図示した土器のうち、1については若干時期が下ると考えられ、流れ込みと考えられる。

土坑については6・7号土坑が注目される。ともに床面に焼土の硬化面、その上層には焼土塊・焼土が堆積しており、何らかの焼成を行った施設ではないかと考えられる。また、床面の四隅のピットは何らかの上部施設の存在も考えられる。時期については6号土坑の出土遺物から弥生時代後期前半頃とみられ、7号土坑も遺物は出土しなかったものの同時期のものと考えていだろう。

その他の遺物が出土した遺構についても、中期後半から後期前半に収まるであろう。

この他にも柱穴や遺構面上層の黒色土層より、弥生時代中期から後期にかけての遺物が出土しており、今回の調査では確認できなかったが、この時期の遺構が多数存在してことが窺える。C区では土坑が2基確認されたのみである。1号土坑は内面にケズリが施されている甕が出土しており、古墳時代以降のものと考えられるが、土他の遺構から同時期の遺物が出土していたため、土坑の時期を示すかどうかは不明である。2号土坑については、遺物が出土していないもの、隅丸長方形を呈する平面形、土坑の隅にピットを掘り込んでいる点など、B区6・7号土坑と類似する状況もみられ、同時期の可能性がある。ただし、焼土層・炭層が確認されなかったことから、短期間で埋没したのであろう。

大肥上村遺跡については甕棺墓1基と土坑4基が確認された。甕棺墓については、胴部下半のみが残存しているが、底部の形態から後期前半頃のものと考えられる。土坑については遺物が確認されなかったため、時期は確定できないが、埋土の状況などから甕棺墓と同じ時期の可能性もある。

今回の調査では大肥祝原遺跡・大肥上村遺跡ともに弥生時代中期から後期にかけての遺構が中心に確認された。この時期のこれまでに調査された大肥川沿いの遺跡を見てみると、大肥条里大肥地区^{山(1)}では中期から後期にかけての集落、後期の甕棺墓・石棺墓群、大肥中村遺跡^{山(2)}では弥生時代中期から後期の甕棺墓・石棺墓群が確認されている。また、現在調査中である高野遺跡^{山(3)}においても同様の時期の集落が確認されている。これらの遺跡はいずれも遺構密度が高く、継続的に営まれた大集落であったと考えられる。大肥上村遺跡は高野遺跡の南約500mに位置し、さらにその南約500mに大肥祝原遺跡が位置する。これらの位置関係からみると、集落や墓地が営まれた中心部は大肥条里大肥地区から大肥中村遺跡にかけての一带であり、この一带は谷が最も開け

た部分にあたる。これより南は高野遺跡にかけて谷は狭くなっており、高野遺跡を南端とするような大肥川流域における中心集落のまとまりがあったのではないかと考えられる。大肥上村遺跡から大肥祝原遺跡にかけては、再び谷は広がってくるが、調査結果からすると遺構密度はそれほど高くない。大肥祝原遺跡A区は若干の削平を受けていたと考えられるが、B区については遺構検出面上層の黒色土の堆積状況からほとんど削平を受けていないと考えられる。その状況での遺構密度を考えれば、それほど高くないと考えるのが妥当であろう。この状況から、大肥上村遺跡から大肥祝原遺跡、大肥川と三隈（筑後）川の合流点付近にかけては、一連の集落の南側縁辺部にあたり、集落規模もそれほど大きくはなかったのではないかと考えられる。

註

- (1) 平成14年度に日田市教育委員会が調査。
- (2) 行時志郎編『大肥中村遺跡－発掘調査概報－』日田市教育委員会 2003
- (3) 平成14・15年度に日田市教育委員会が調査。

第1表 出土土器観察表(1)

挿図番号	区名	遺構名	種別	器種	法 量				調 整		胎 土	焼 成	色 調		備 考
					口径	胴部径	底径	器高	外面	内面			外面	内面	
第5図1	A	6号土坑	陶器	碗	-	-	-	(1.9)	-	-	緻密	良好	赤茶色	赤茶色	
第11図1	B	1号竪穴	弥生	甕	(35.2)	(34.0)	-	(17.1)	ハケ?	ナデ?	A C D E	やや不良	淡暗褐色	淡暗褐色	
第11図2	B	1号竪穴	弥生	高杯	(26.0)	-	-	(7.5)	ナデ	ミガキ	A C	良好	赤褐色	赤褐色	
第11図3	B	1号竪穴	弥生	高杯	(22.2)	-	-	(5.8)	ナデ	ミガキ	A C F	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
第11図4	B	1号竪穴	弥生	甕	-	-	(8.4)	(4.2)	ハケ? ナデ	ナデ	A C F	やや不良	淡黄褐色	淡黄褐色	
第11図5	B	1号竪穴	弥生	甕	-	-	(10.8)	(4.7)	ハケ ナデ	ナデ	A E F	良好	淡黄褐色	淡黄褐色	
第11図6	B	1号竪穴	弥生	甕	-	-	8.9	(10.2)	ハケ ナデ	指押え	A C D E	良好	淡赤褐色	黄褐色	
第16図1	B	2号土坑	弥生	甕	-	-	-	(1.7)	ナデ	ナデ	A B	良好	赤褐色	赤褐色	朱塗り
第16図2	B	2号土坑	弥生	甕	-	(26.6)	-	(7.2)	ナデ ミガキ	ナデ	A C	良好	赤褐色	赤褐色	朱塗り・M 字突帯
第16図3	B	2号土坑	弥生	甕	(32.6)	-	-	(7.3)	ハケ?	ナデ	A C E	良好	黄褐色	黄褐色	
第16図4	B	2号土坑	弥生	壺	(23.0)	-	-	(25.0)	ハケ ナデ	ナデ	A D F	不良	淡黄褐色	淡黄褐色	三角突帯
第16図5	B	6号土坑	弥生	甕	-	-	-	(4.6)	ハケ ナデ	ナデ	A B C	やや不良	淡赤褐色	淡赤褐色	
第16図6	B	6号土坑	弥生	甕	-	-	(9.8)	(3.4)	不明	不明	A C G	やや不良	淡赤褐色	暗褐色	
第17図1	B	8号土坑	弥生	甕	(29.6)	-	-	(4.5)	ナデ	ナデ	E G	良好	淡黄褐色	淡黄褐色	
第17図2	B	8号土坑	弥生	甕	(28.4)	-	-	(6.4)	ナデ	ナデ	C E F G	良好	淡黄褐色	淡黄褐色	
第17図3	B	8号土坑	弥生	甕	(23.6)	-	-	(5.0)	ハケ?	ナデ?	A B C D	やや不良	淡赤褐色	淡赤褐色	スス付着
第17図4	B	8号土坑	弥生	甕	-	-	-	(7.5)	不明	ナデ	A B G	不良	淡黒褐色	暗褐色	
第17図5	B	8号土坑	弥生	壺	-	-	-	(3.0)	ナデ	ナデ	A B D	不良	暗褐色	淡黒褐色	
第17図6	B	8号土坑	弥生	甕	-	-	-	(3.7)	不明	不明	A C E	やや不良	暗黄褐色	黄褐色	
第17図7	B	8号土坑	弥生	甕	-	-	8.4	(2.6)	不明	指押え	A B E	良好	暗黄褐色	暗黄褐色	スス付着
第17図8	B	8号土坑	弥生	甕	-	-	(8.2)	(2.7)	不明	不明	B C E	やや不良	赤褐色	淡黒褐色	スス付着
第17図9	B	8号土坑	弥生	甕	-	-	(8.4)	(7.7)	ハケ	不明	A C E	やや不良	赤褐色	淡赤褐色	スス付着
第17図10	B	9号土坑	弥生	甕	(26.0)	-	-	(5.0)	ハケ ナデ	ナデ	A C D E	やや不良	淡赤褐色	淡赤褐色	
第17図11	B	9号土坑	弥生	甕	(29.4)	-	-	(9.4)	ハケ? ナデ	ナデ	C E	やや不良	淡赤褐色	淡茶褐色	
第17図12	B	9号土坑	弥生	甕	(24.8)	(23.0)	-	(10.4)	ハケ ナデ	ナデ	C H	やや不良	淡赤褐色	淡黄褐色	
第17図13	B	9号土坑	弥生	甕	(29.0)	(29.2)	-	(16.0)	ナデ	ナデ	B D E F	やや不良	淡赤褐色	淡黄褐色	
第17図14	B	9号土坑	弥生	甕	(21.4)	-	-	(4.4)	ナデ	ナデ	A C E	不良	淡赤褐色	淡赤褐色	朱残存
第17図15	B	9号土坑	弥生	高杯	-	胴部径 (3.8)	-	(9.6)	ハケ	ナデ	C E	不良	淡赤褐色	淡赤褐色	
第17図16	B	10号土坑	弥生	甕	(28.8)	-	-	(4.9)	ハケ ナデ	ナデ	A C	やや不良	淡黄褐色	淡黄褐色	
第17図17	B	10号土坑	弥生	甕	-	-	(7.9)	(4.6)	ハケ	不明	B C E	やや不良	淡茶褐色	淡茶褐色	
第17図18	B	10号土坑	弥生	甕	-	-	6.8	(8.0)	ハケ	不明	A C E	良好	淡赤褐色	淡茶褐色	底部に当て 具痕
第17図19	B	10号土坑	弥生	鉢	(21.2)	(9.2)	-	9.6	ハケ?	ナデ	B E	やや不良	淡黄褐色	淡黄褐色	スス付着
第17図20	B	11号土坑	弥生	甕	-	-	-	-	ハケ	不明	A C E	やや不良	淡茶褐色	淡黄褐色	

第2表 出土土器観察表 (2)

第18図1	B	P1	弥生	高杯	-	-	-	(2.5)	ナテ	ナテ	AC	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	朱塗り
第18図2	B	P2	弥生	甕	-	-	6.9	(6.5)	ハケ	不明	BCE	不良	淡黄褐色	淡黄褐色	
第18図3	B	P3	弥生	甕	-	-	8.2	(3.5)	ナテ	ナテ 指押え	ACE	不良	淡赤褐色	淡赤褐色	
第18図4	B	P4	弥生	甕	-	-	8.1	(6.0)	ハケ ナテ	ナテ	CE	やや不良	淡黄褐色	淡黒褐色	スス付着
第18図5	B	一括	弥生	甕	-	-	-	(3.6)	ナテ	ハケ	CE	良好	暗褐色	暗褐色	朱残存
第18図6	B	一括	弥生	甕	-	-	-	(3.8)	ナテ	ナテ	AB	やや不良	淡黄褐色	淡黄褐色	
第18図7	B	一括	弥生	壺	(32.0)	-	-	(4.0)	ナテ	ナテ	AE	良好	淡暗褐色	淡暗褐色	
第18図8	B	一括	弥生	甕	(26.2)	-	-	(4.0)	ナテ?	ナテ?	ACE	良好	暗褐色	暗褐色	スス付着
第18図9	B	黒色土	弥生	高杯	-	(脚径) (5.2)	-	(10.7)	ケズリ		ACE	やや不良	赤褐色	赤褐色	
第18図10	B	一括	弥生	器台	-	-	(9.4)	(7.7)	指押え ナテ	ナテ	ACE	やや不良	淡黄褐色	淡黄褐色	
第18図11	B	一括	弥生	甕	-	-		(4.5)	不明	不明	BE	不良	淡赤褐色	淡茶褐色	
第18図12	B	一括	弥生	甕	-	-	(7.8)	(4.6)	不明	不明	BCE	やや不良	淡黄褐色	淡黄褐色	
第18図13	B	一括	弥生	甕	-	-	(5.8)	(4.9)	ナテ	指押え	ACE	不良	淡赤褐色	淡褐色	
第18図14	B	一括	弥生	甕	-	-	6.0	(2.7)	不明	不明	ABC	良好	赤褐色	淡黒褐色	
第18図15	B	黒色土	弥生	甕	-	-	7.5	(4.0)	ハケ ナテ	ナテ	AEF	良好	淡赤褐色	淡茶褐色	
第18図16	B	黒色土	弥生	甕	-	-	(9.0)	(6.5)	ナテ	ナテ	ACE	良好	淡黄褐色	淡黒褐色	
第18図17	B	一括	弥生	甕	-	-	(8.0)	(8.5)	ハケ ナテ	ナテ	ACE	やや不良	淡赤褐色	淡褐色	スス付着
第18図18	B	一括	弥生	甕	-	-	(7.8)	(7.1)	不明	不明	CE	やや不良	暗赤褐色	暗褐色	スス付着
第20図1	C	1号土坑	土師	甕	-	-		(3.5)	不明	ケズリ	AC	やや不良	暗赤褐色	暗赤褐色	
第22図1	上村	1号甕棺墓	弥生	甕	-	-	13.4	(23.3)	不明	ハケ 指押え	ACH	やや不良	淡黄褐色	淡黄褐色	

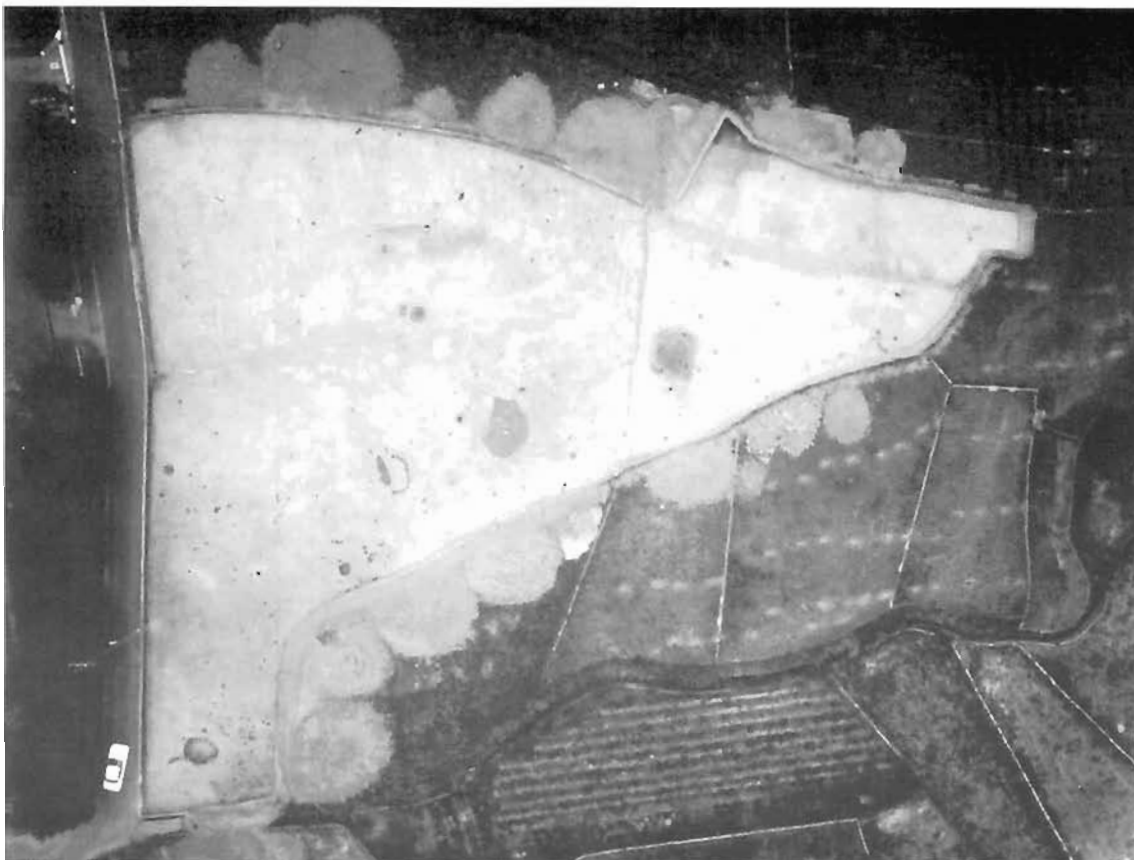
注記の単位はcm。() 書きは、残存と復原を表す。

胎土:A角閃石 B石英 C長石 D赤色粒子 E白色粒子 F黒色粒子 G雲母 H砂礫

第3表 出土石器観察表

図版番号	区名	遺構名	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
第8図2	A	一括	尖頭器	安山岩	13.4	3.6	1.3	62.3	完形
第8図3	A	1号竪穴	石皿	安山岩	(14.7)	17.7	5.7	6043.9	
第8図4	A	一括	石斧	片岩	12.6	5.8	2.7	360.9	
第8図5	A	2号竪穴	石鏃	黒曜石	2.0	(1.0)	3.0	0.1	脚部一部欠損
第8図6	A	2号竪穴	石鏃	黒曜石	1.5	1.2	0.3	0.1	完形
第8図7	A	2号竪穴	石鏃	黒曜石	2.0	2.0	0.3	0.5	未製品
第18図19	B	一括	石燧丁	片岩	(6.8)	4.3	0.7	32.9	

※単位はcm。() は現存長



大肥祝原遺跡A区の空中写真（真上から）



大肥祝原遺跡B区の空中写真（真上から）

図版2



A区1号竪穴遺構完掘状況
(南西から)

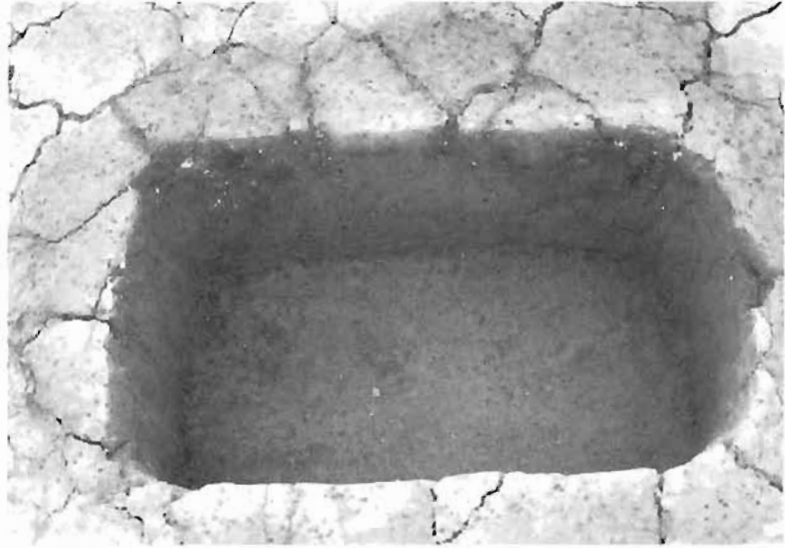


A区2号竪穴遺構完掘状況
(南西から)

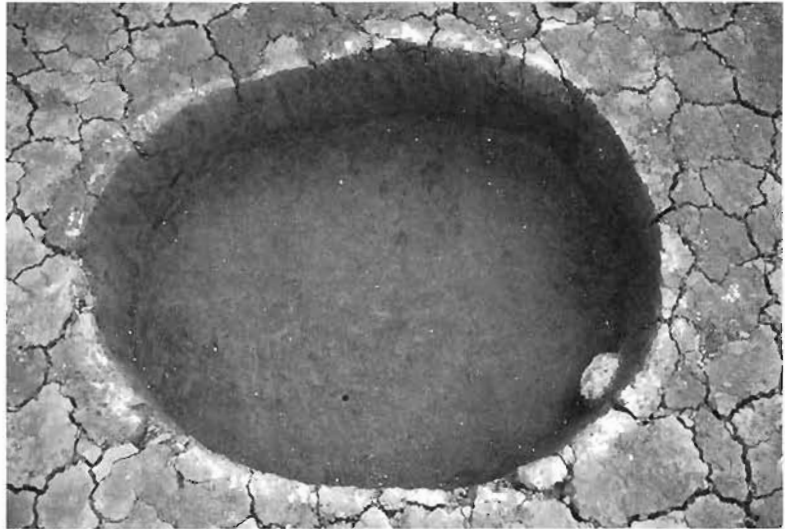


A区1号土坑完掘状況
(西から)

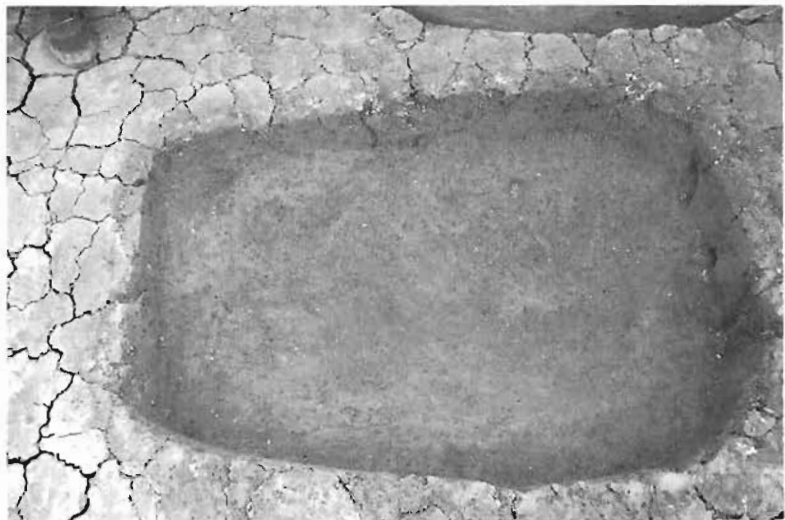
A区2号土坑完掘状況
(東から)



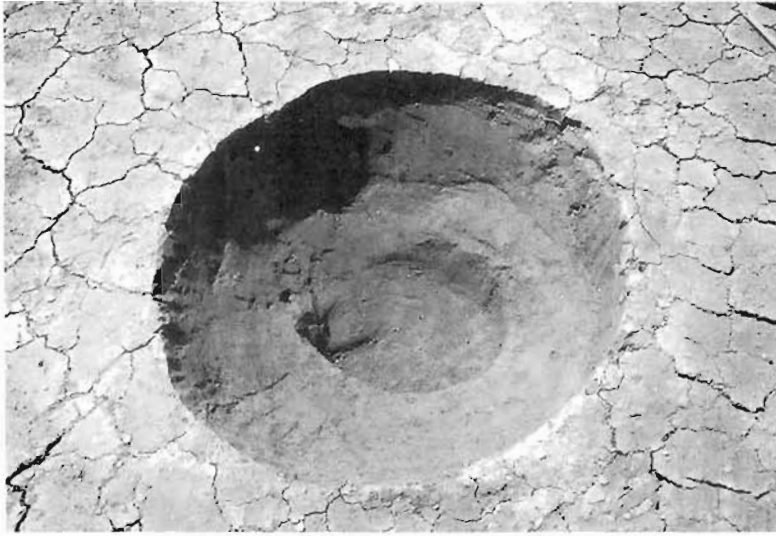
A区3号土坑完掘状況
(南東から)



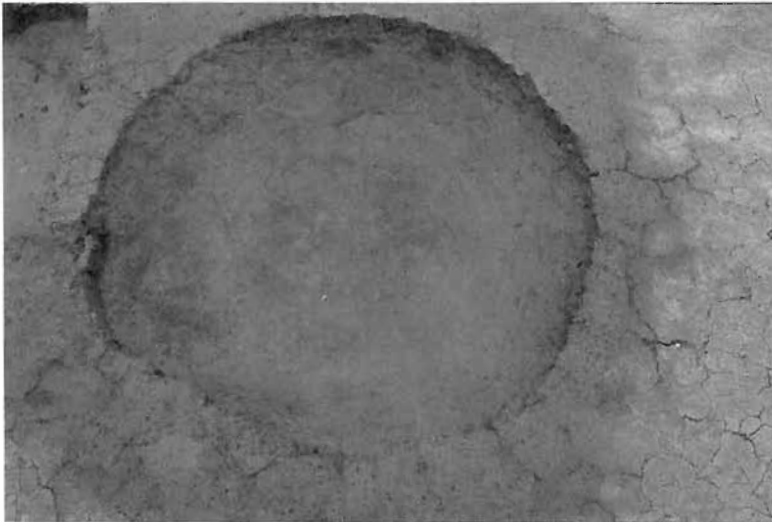
A区4号土坑完掘状況
(南東から)



図版 4



A区5号土坑完掘状況
(北東から)



A区6号土坑完掘状況
(西から)



B区1号竖穴遺構遺物出土状況
(東から)



B区1号竖穴遺構完掘状況
(南から)



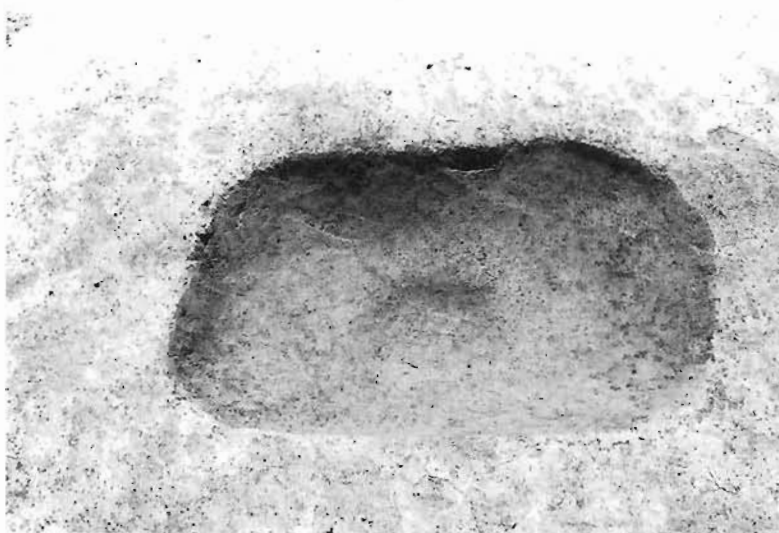
B区1号土坑完掘状況
(西から)



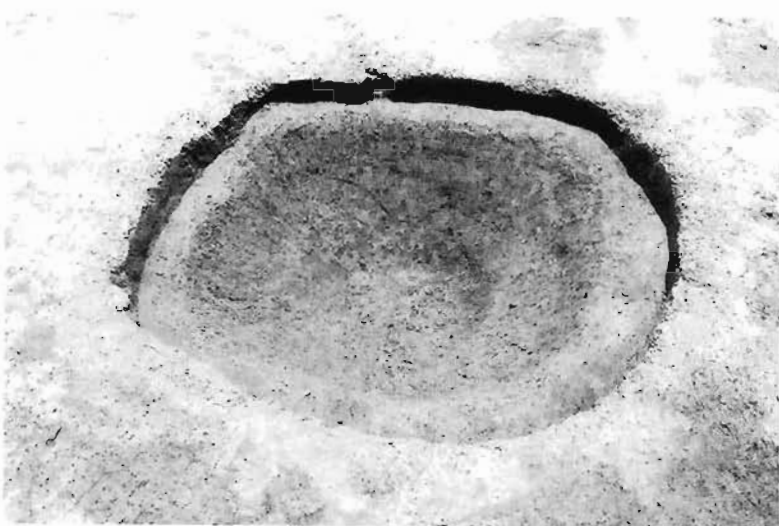
B区2号土坑遺物出土状況
(南西から)



B区3号土坑完掘状況
(南から)



B区4号土坑完掘状況
(西から)



B区5号土坑完掘状況
(西から)

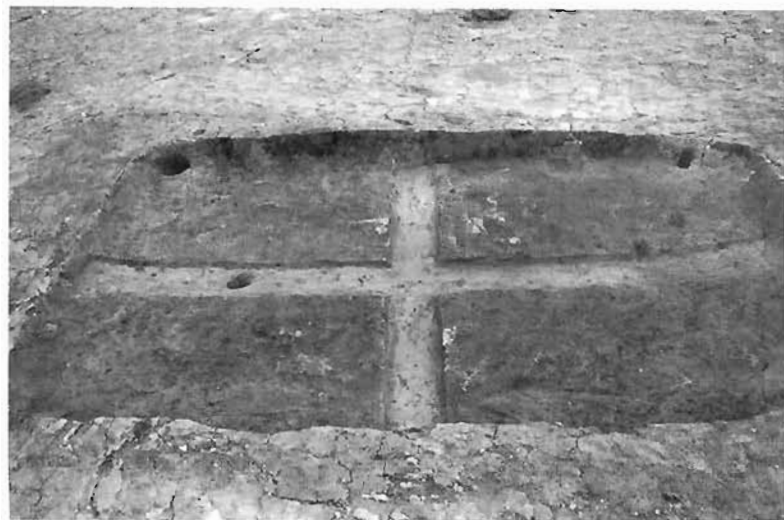
B区6号土坑焼土検出状況
(南西から)

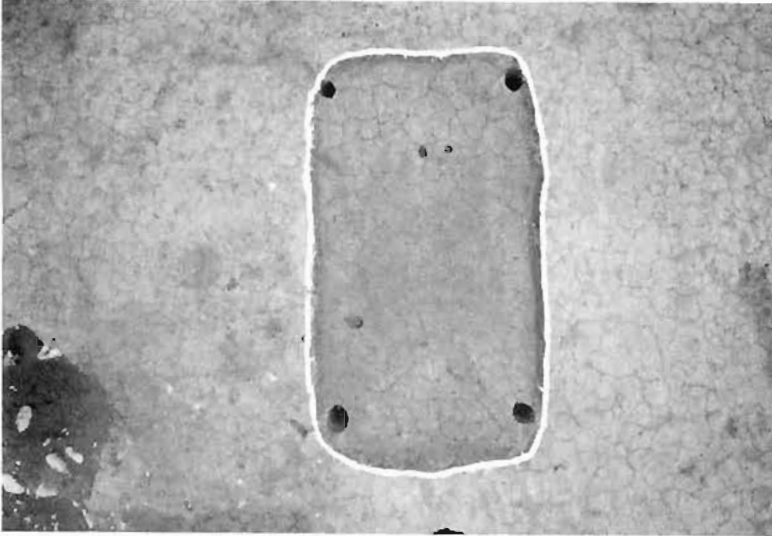


B区6号土坑完掘状況
(真上から)

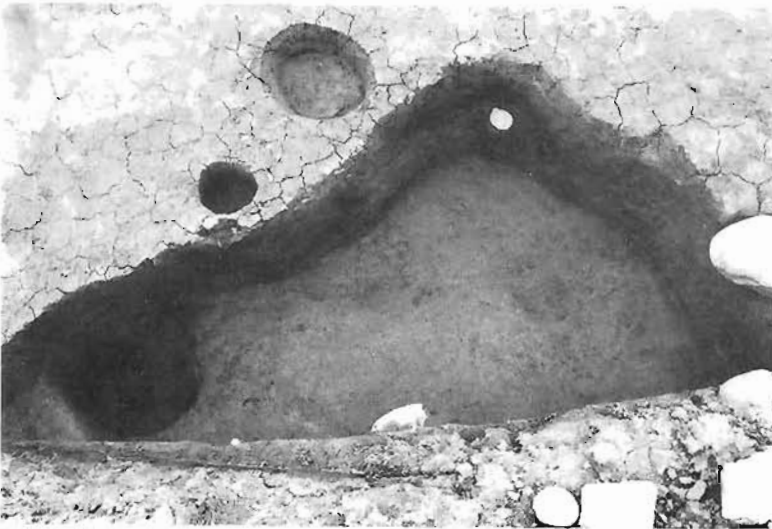


B区7号土坑焼土検出状況
(南から)

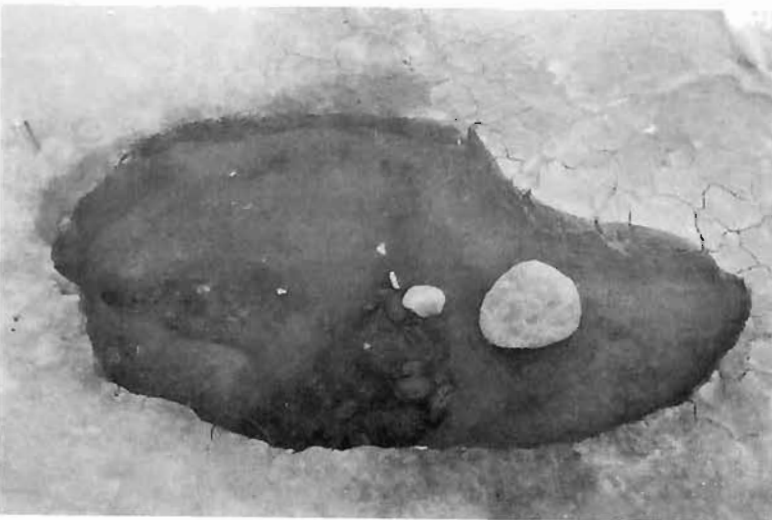




B区7号土坑完掘状況
(真上から)

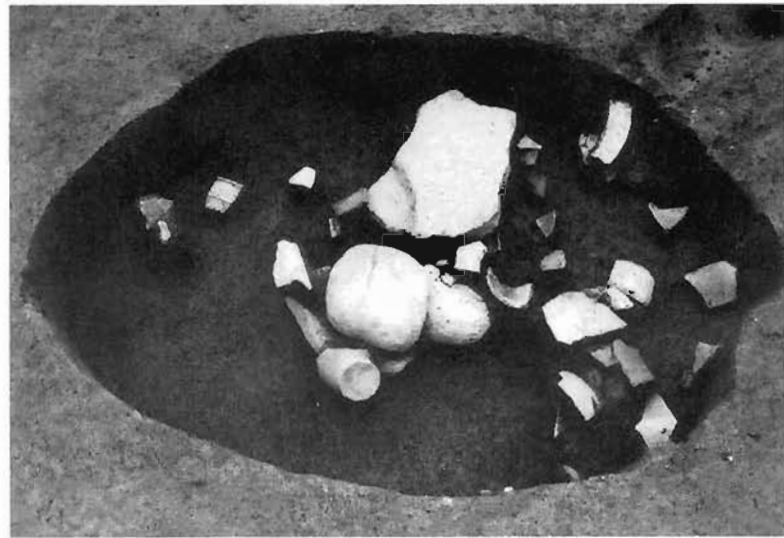


B区8号土坑完掘状況
(東から)



B区9号土坑完掘状況
(北東から)

B区10号土坑遺物出土状況
(西から)

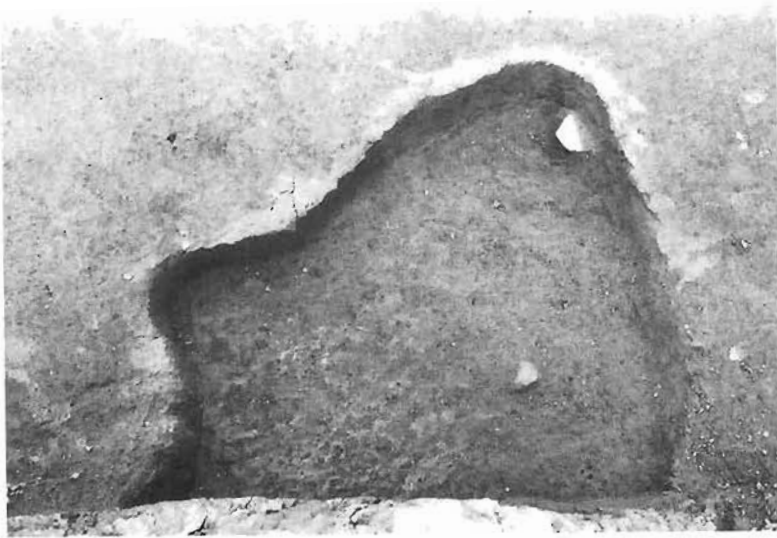


B区10号土坑完掘状況
(西から)



B区11号土坑完掘状況
(南から)





B区12号土坑完掘状況
(南から)



C区1号土坑完掘状況
(南から)



大肥上村遺跡全景(南から)

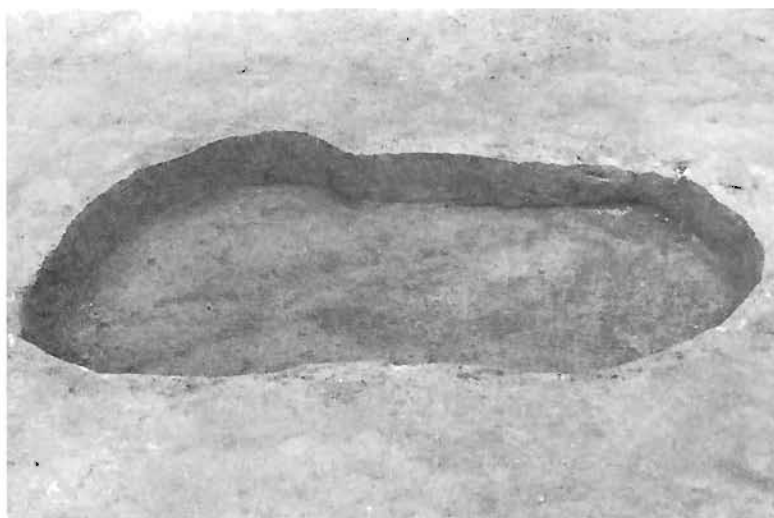
大肥上村遺跡 1号甕棺検出状況
(南から)



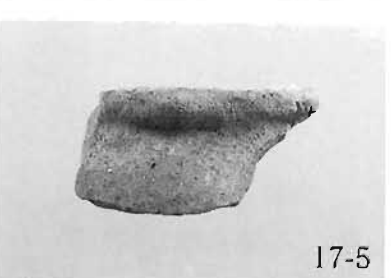
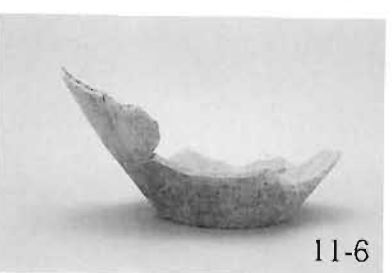
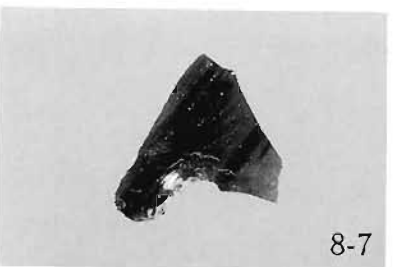
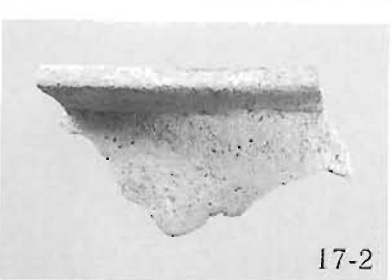
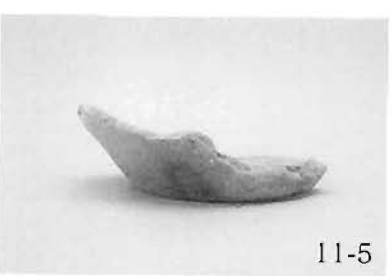
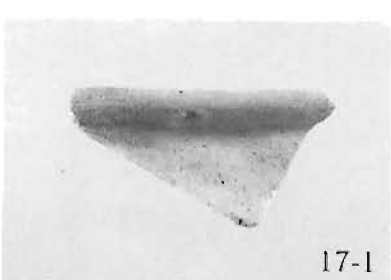
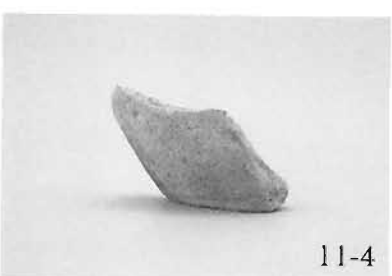
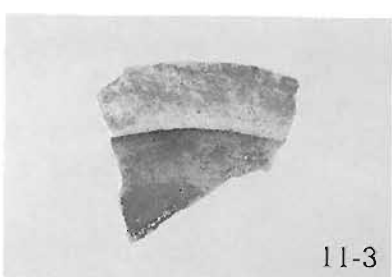
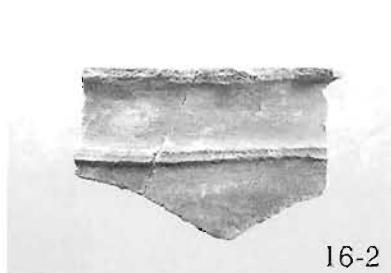
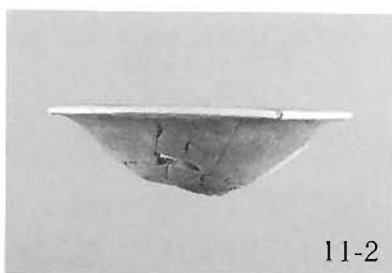
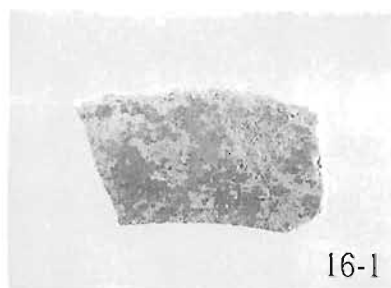
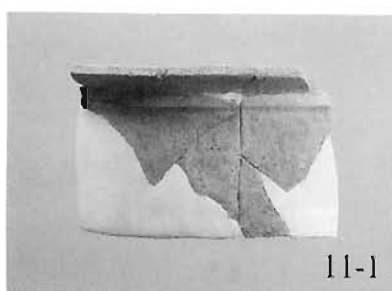
大肥上村遺跡 1号土坑掘状況
(西から)

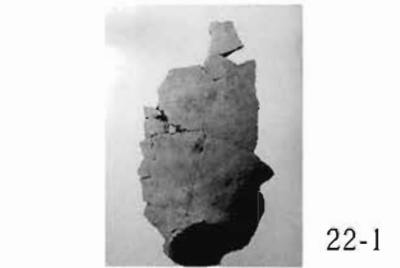
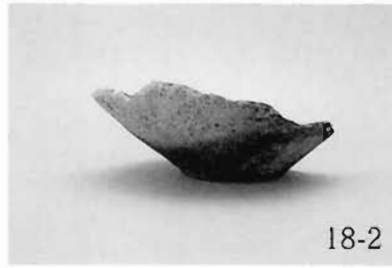
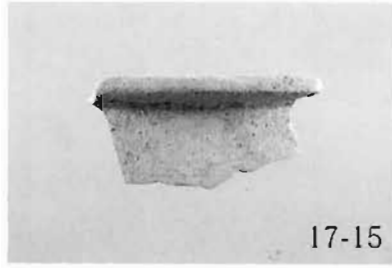
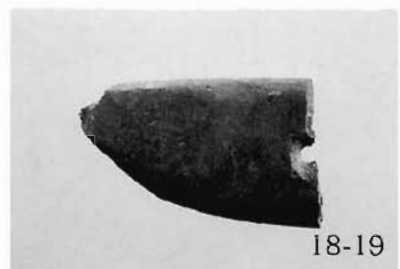
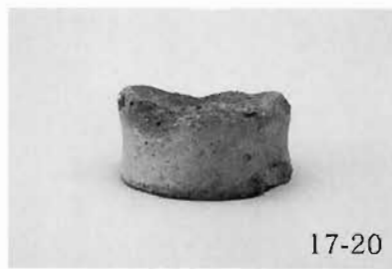
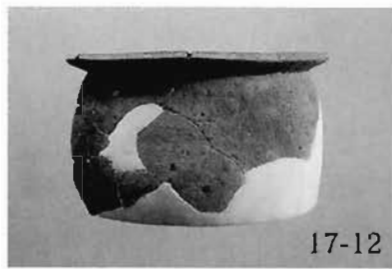
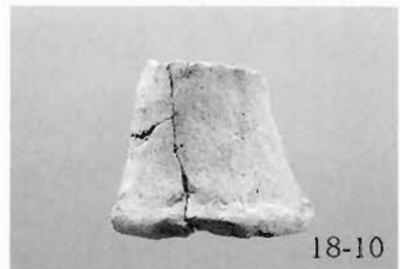
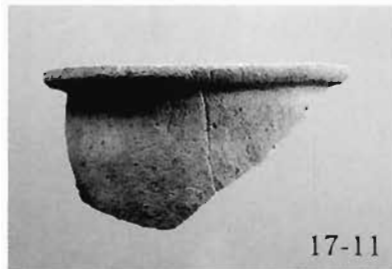
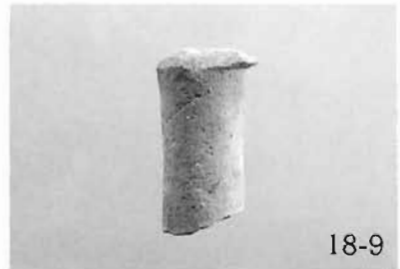
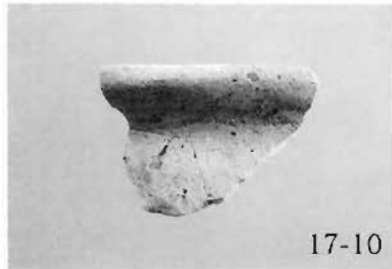
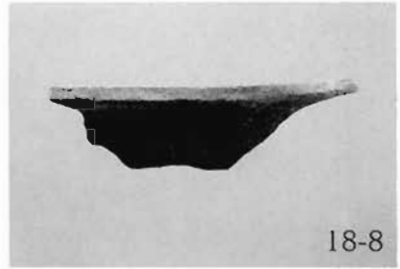
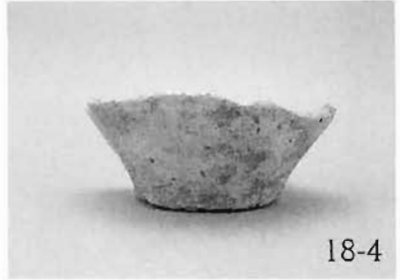
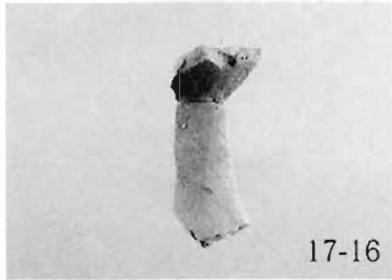
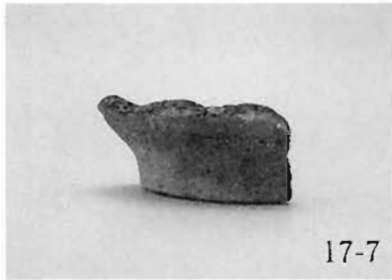


大肥上村遺跡 3号土坑完掘状況
(南から)



图版 12





報 告 書 抄 録

ふりがな	おおひいわいばるいせき・おおひかみむらいせき
書名	大肥祝原遺跡・大肥上村遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	45
編著者名	若杉竜太
編集機関	日田市教育委員会文化課
所在地	〒877-0077 日田市南友田町516-1
発行機関	日田市教育委員会
所在地	〒877-8601 日田市田島2-6-1
発行年月日	2003年7月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大肥条里 祝原地区	大分県日田市 大字夜明 字道ノ外	44204-6		33° 19' 23"	130° 52' 12"	A～C区 19990516 ～ 19990809	5,100㎡	ほ場整備
大肥条里 上村地区	大分県日田市 大字夜明 字上村			33° 19' 51"	130° 52' 22"	19990928 ～ 19991029	950㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大肥条里 祝原地区	集落	弥生時代	竪穴遺構 土坑	弥生土器 石器（石庖丁・石鏃）	
大肥条里 上村地区	集落 墓地	弥生時代	土坑 甕棺墓		

**大肥祝原遺跡
大肥上村遺跡**

2003年7月31日

編 集 877-0077 大分県日田市南友田町516-1
日田市教育委員会文化課

発 行 877-8601 大分県日田市田島2-6-1
日田市教育委員会

印 刷 877-0044 大分県日田市隈2-7-23
三光堂印刷所